

国立ハンセン病資料館 重監房資料館

2020年度 年報

国立ハンセン病資料館

目 次

第1部 国立ハンセン病資料館	03
第1章 国立ハンセン病資料館の概要	04
Ⅰ 目的・理念・機能	04
Ⅱ 運営委員会	06
Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程	09
Ⅳ 組織	12
Ⅴ 沿革	14
Ⅵ これまでの主な事業	15
Ⅶ 施設概要	21
第2章 2020年度事業	22
Ⅰ 教育啓発機能	22
1. 団体見学対応	
2. 語り部活動・講義	
3. シンポジウム・講演会等の開催	
4. 資料の貸出等	
5. 学校教育との連携	
Ⅱ 展示機能	27
1. 常設展示	
2. 企画展示・特別展示	
Ⅲ 収集・保存機能	31
1. 資料の収集	
2. 収蔵資料の保存・管理	
Ⅳ 調査研究機能	32
1. 収蔵資料に関する調査	
2. 企画展・催事開催のための調査研究	
3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究	
Ⅴ 情報センター機能	34
1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用	
2. 情報提供・検索システム関連業務	
3. 図書室の管理・運営	
4. 印刷物の発行・配布	
Ⅵ 管理・サービス機能	37
1. 施設管理・運営	
2. アンケートの実施	
3. 施設貸出	
4. その他	
Ⅶ 企画調整機能	39
1. 広報活動	
2. 博物館施設、関係諸機関との連携	
Ⅷ 2020年度利用状況	40

第2部 重監房資料館	41
第1章 重監房資料館の概要	42
I 目的・理念・機能	42
II 運営委員会	43
III 重監房資料館管理運営規程	44
IV 組織	47
V 沿革・これまでの主な事業	48
VI 施設概要	51
第2章 2020年度事業	52
I 歴史継承機能	52
1. 資料の収集・保存	
2. 屋外展示（跡地）環境の保全	
3. 調査・研究	
4. その他	
II 普及啓発機能	54
1. 調査・研究成果の発表	
2. 語り部活動	
3. 人権学習の支援	
4. 普及啓発のための映像制作活動	
5. 執筆活動	
6. イベントの開催	
7. 学校教育支援活動	
8. 広報活動	
9. 栗生楽泉園との連携	
III 再現・展示機能	58
1. レクチャー室	
2. エントランス・ホワイエ	
3. 常設展示	
4. 企画展示	
5. その他	
IV 情報発信機能	61
1. ホームページ	
2. 広報資料の作成・発行	
3. マスコミ対応	
4. その他	
V 管理機能	62
1. 施設運用のための必要機能の整備	
VI 2020年度利用状況	64
利用案内	65

第1部 国立ハンセン病資料館

第1章 国立ハンセン病資料館の概要

I 目的・理念・機能

【目的】

「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」前文及び第11条（名誉の回復等）、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」第18条（名誉の回復及び死没者の追悼）に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、患者・元患者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指す。

【理念】

1. ハンセン病資料館は、ハンセン病に関する知識の普及や理解の促進に努めます
2. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる偏見や差別、排除の解消に努めます
3. ハンセン病資料館は、ハンセン病に対する、古代以来の長年にわたる偏見・差別、とりわけ誤った隔離政策の歴史に学び、苦難や被害を被った人々の体験と、これらに立ち向かった姿を示します
4. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々の名誉回復を目指し、人権尊重の精神を養うことに努めます
5. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々と社会との共生の実現に努めます

【求められる資料館像】

■普及啓発の拠点

ハンセン病に関する中核施設として、各療養所と連携を図りながら、ハンセン病についての医学的知識、治療の歴史、患者・元患者に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験についての情報を社会に示し、ハンセン病への理解を促進する。そして、それをもとに来館者が人権等の問題について考える場を提供する。

■情報の拠点

ハンセン病に関するあらゆる情報を受信・集積し、後世に継承するとともに、同様の取り組みを実施している国内外の関連組織との連携を図り、広く世界へ発信する。

■交流の拠点

資料館において語り部や患者・元患者との交流を促進する。

【機能】

■教育啓発機能

資料の収集保存や調査研究活動等によって得られた成果を、教育啓発を通じて一般に示し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■展示機能

教育啓発機能と同様に、資料を収集保存し調査研究活動を行い、その結果得られた成果を展示を通じて公開し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■収集保存機能

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため、ハンセン病に関わる資料を収集、保存する。

■調査研究機能

ハンセン病に関わるさまざまな調査研究を行い、教育啓発や展示活動等、資料館活動に有効なものとする。

■情報センター機能

ハンセン病に関わる情報の受発信と集積を行うとともに、全国の関連機関との連携を図る。

■管理・サービス機能

円滑な資料館運営を行うとともに、利用者の利便性を図る活動を実施する。

■企画調整機能

館内の各活動を円滑に行うための連絡調整や、全国の関連機関との連携促進、資料館の存在・その意義を認知させるための活動を行う。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

国立ハンセン病資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な運用を図るために行う。委員の委嘱および招集は館長が行う。事務局は資料館管理部が担当する。

2) 2020年度委員（敬称略）

委員長	成田 稔	（国立ハンセン病資料館館長）
委 員	赤沼 康弘	（弁護士）
	秋山 敦	（厚生労働省健康局難病対策課課長補佐）
	飯塚 賢治	（国立ハンセン病資料館事務局長）
	石井 則久	（国立療養所多磨全生園園長）
	君塚 仁彦	（国立大学法人東京学芸大学教授）
	黒尾 和久	（重監房資料館部長）
	澤田 泉	（NPO 法人東村山活き生きまちづくり理事長）
	柴田すい子	（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会副会長）
	平沢 保治	（元国立ハンセン病資料館語り部）
	藤崎 陸安	（全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長）
	星野 奈央	（国立ハンセン病資料館事業部部長）

3) 開催日

第1回	2020年7月29日	第2回	2020年9月8日
第3回	2020年10月9日	第4回	2020年11月20日
第5回	2021年1月14日		

【参考】ハンセン病資料館等運営企画検討会

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営については、展示機能はもとより当該資料館の様々な機能を十分に発揮し、活動を円滑に推進すること、諸機能の質を維持しさらに発展していくこと、利用者の幅広いニーズに応え活発な事業展開を行っていくこと等を念頭に、資料館の特性を踏まえた管理運営を実現することが必要である。

このため、学識経験者、資料館関係者、患者団体代表者等の関係者から構成される「ハンセン病資料館等運営企画検討会」を厚生労働省が開催し、資料館の年間事業計画の検討等を行うものとする。

2) 参集者（敬称略 50音順）

鮎京眞知子（弁護士、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）
石井 則久（全国国立ハンセン病療養所施設長協議会会長、国立療養所多磨全生園園長）
島田 肇（元総務省人事・恩給局顧問医）
志村 康（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長）
鈴木 眞理（青山学院大学教育人間科学部教授）
半田 昌之（公益財団法人日本博物館協会専務理事）
日比野守男（ジャーナリスト）
森 和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長）
渡邊 昭彦（公益社団法人日本広報協会常務理事）

3) 開催日

第1回	2007年11月19日	第2回	2008年3月21日
第3回	2008年12月5日	第4回	2009年3月11日
第5回	2009年10月20日	第6回	2010年5月21日
第7回	2011年5月27日	第8回	2012年5月23日
第9回	2013年5月16日	第10回	2014年5月27日
第11回	2015年5月27日	第12回	2016年6月1日
第13回	2016年12月6日	第14回	2017年1月26日
第15回	2017年3月13日	第16回	2017年6月2日
第17回	2018年2月27日	第18回	2018年5月31日
第19回	2018年12月19日	第20回	2019年5月29日
第21回	2020年1月31日	第22回	2020年11月26日
第23回	2021年3月18日		

【参考】常設展示見直し検討会

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（平成20年法律第82号）第18条に基づき、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識を普及啓発し、患者・元患者とその家族の名誉の回復を図ることを目的とした施設である。

平成19年の国立ハンセン病資料館としての開館から10年以上が経過し、ハンセン病問題に係る新たな資料や調査結果が多数報告されるなど、展示情報の見直しが必要となっていることから、展示内容について検討を行い、その目的に沿った展示の充実を図るため、「国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会」を厚生労働省が開催する。

2) 参集者（敬称略 50音順）

赤沼 康弘	（ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）
蘭 由岐子	（追手門学院大学教授）
内田 博文	（国立大学法人九州大学名誉教授）
遠藤 隆久	（熊本学園大学名誉教授）
太田 明夫	（ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会会長）
君塚 仁彦	（国立大学法人東京学芸大学教授）
黒坂 愛衣	（東北学院大学准教授）
鈴木 利廣	（すずかけ法律事務所弁護士）
豎山 勲	（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長）
成田 稔	（国立ハンセン病資料館館長）
畑野研太郎	（日本キリスト教海外医療協力会会長）
浜崎 眞実	（カトリック司祭）
藤崎 陸安	（全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長）

3) 開催日

第1回	2020年11月10日	第2回	2021年3月18日
-----	-------------	-----	------------

Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程

最終改正：2016年2月25日

（目的）

第1条 この規程は、国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

（事業）

第2条 資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（2008年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及びハンセン病患者・元患者の名誉回復を図るため、次に掲げる事業を行う。

（1）教育啓発事業

ハンセン病に関する文献、実物（民俗、文書、美術、工芸、建築、遺構等）、模型、写真、フィルム、音声、映像、記事、オーラルヒストリー等の資料（以下「資料」という。）について、常設展示・映像ホールを活用して広く公開するとともに、情報を提供する。また、入所者その他の関係者による語り部活動、医療従事者による看護学校学生への医学的な講義等を通じた教育啓発の推進を図る。

（2）展示事業

資料の収集保存、調査研究の成果を常設展示・特設展示等を通じて公開する。

（3）収集保存事業

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため必要な資料及び図書を継続的に収集し、適切に保存する。

（4）調査研究事業

ハンセン病に関する事象の調査研究を行い、教育啓発等の活動に有効に資する。

（5）情報センター事業

資料館の情報システムを活用した情報の受発信及び集積を行い、国内外の関連施設との連携を図る。

（6）管理・サービス事業

円滑な資料館運営を行い、利用者の利便や普及活動の推進を図る。

（7）企画調整事業

資料館の活動を行うための連絡調整や全国の関連施設との連携の促進、資料館の存在意義を認知させるための活動を行う。

（年間事業計画）

第3条 国立ハンセン病資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は次の日）、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）、国民の祝日の翌日、館内整理日

(2) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

(入館料)

資料館の入館料は、無料とする。

(入館の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれがある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

(入館者への指導)

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損、または汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

(損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損し、又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

(資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の傷害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策について指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規定は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規定は、施設の利用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要な事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

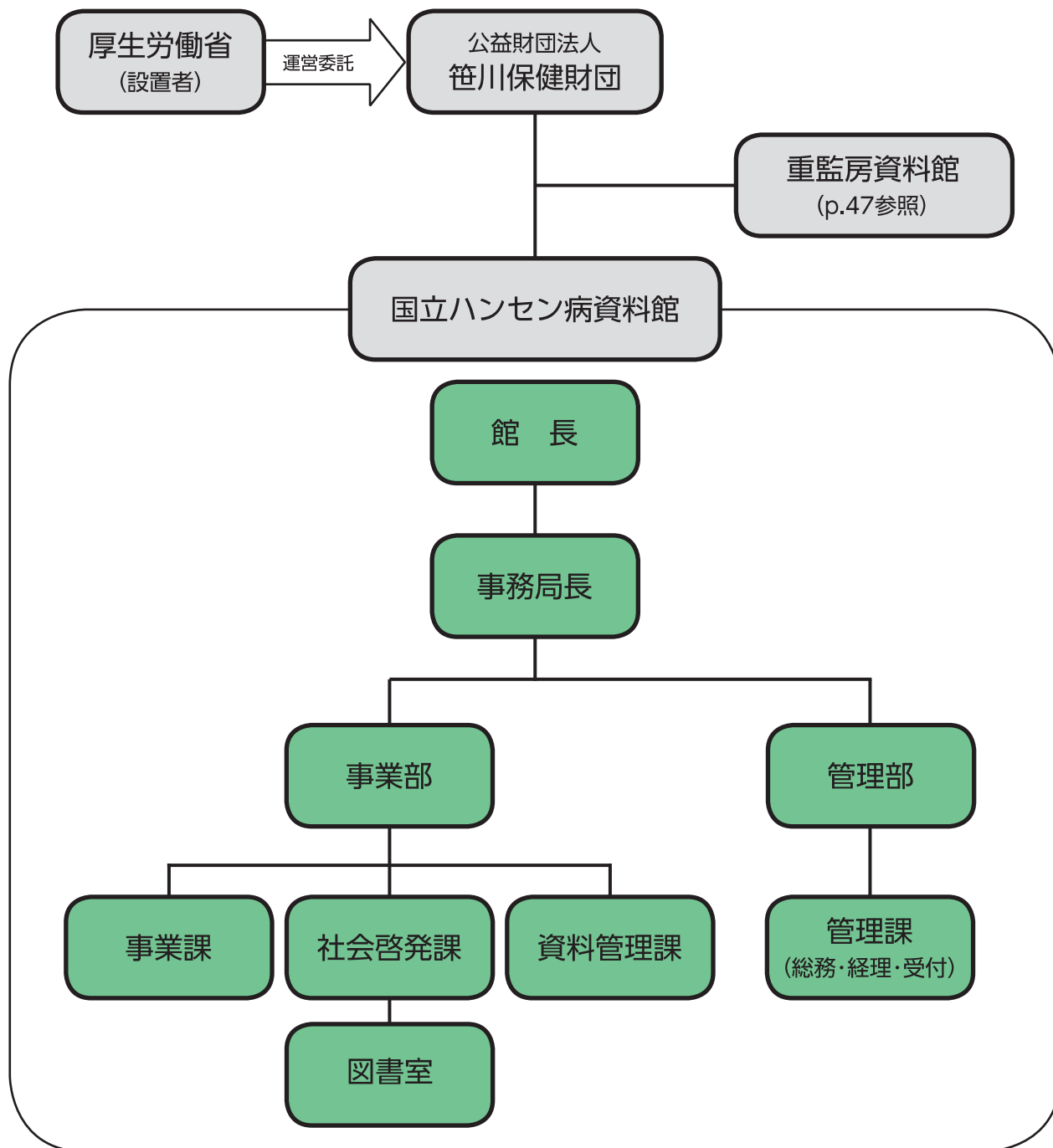
第16条 この規程に定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

この規程は、2007年4月1日から施行する。

IV 組織

■ 組織図



■職員名簿 2021年3月31日現在

・館長 成田 稔

・事務局長 飯塚 賢治

・事業部 部長 星野 奈央

事業課 学芸員 課長 西浦 直子

〃 主任 木村 哲也

〃 田代 学

〃 橋本 彩香

〃 補 吉國 元

〃 主任 田村 朋久（長島愛生園 同歴史館学芸員）

〃 主任 原田 寿真（菊池恵楓園 同社会交流会館歴史資料館学芸員）

〃 主任 辻 央（沖縄愛楽園 同交流会館学芸員）

〃 鈴木 陽子（沖縄愛楽園 同交流会館学芸員）

〃 澤田 大介（松丘保養園 同社会交流会館学芸員）

〃 干川 直康（栗生楽泉園 同社会交流会館学芸員）

〃 杉山富貴子（駿河療養所 同駿河ふれあいセンター学芸員）

〃 木下 浩（長島愛生園 同歴史館学芸員）

〃 太田由加利（邑久光明園 同社会交流会館学芸員）

〃 仙石 祐子（邑久光明園 同社会交流会館学芸員）

〃 池永 禎子（大島青松園 同社会交流会館学芸員）

〃 原田 玲子（星塚敬愛園 同社会交流会館学芸員）

〃 石井 千尋（星塚敬愛園 同社会交流会館学芸員）

社会啓発課 学芸員 課長 大高俊一郎

〃 主任 金 貴 粉

〃 牛嶋 涉

司 書 坂井 直枝

司書補佐 福富 裕子

〃 斎藤 聖

資料管理課 課長 星野 奈央（兼務）

・管理部 部長 芳川 龍郎

管理課 課長 芳川 龍郎（兼務）

曲木 昭枝

及川由紀子

千代倉裕子

中島 久行

受 付 赤石 和子

V 沿革

1990年	財団法人藤楓協会が創立40周年記念事業として資料館建設を計画し、有識者・各園園長・自治会長らからなるハンセン病資料調査会が発足（7月）。
1992年	資料館建築起工式（施工／建築：佐藤工業 展示：自主）（6月）。
	多磨全生園に高松宮記念ハンセン病資料館建設促進対策委員会設置（7月）。
	全国16園・関係機関から資料収集（10月～12月）。
	展示プラン作成（12月）。
1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館（運営委託先：財団法人藤楓協会）（6月）。
1994年	ハンセン病予防事業対策調査検討委員会の大谷藤郎座長が、「らい予防法」廃止と在園保障を柱とする「大谷見解」を表明（4月）。
1996年	「らい予防法」廃止（4月）。
2000年	財団法人日本船舶振興会（現日本財団）の協力により、当館の図書室・収蔵庫等の拡張、全園の資料保存を目的としたハンセン病資料保存検討委員会が発足（8月）。
2001年	ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟で原告勝訴（熊本地裁）。控訴期限当日に控訴断念の旨を盛り込んだ「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」が発表され、熊本地裁判決確定。総理談話にハンセン病資料館の充実も盛り込まれる（5月）。
	「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」成立（6月）。
	国賠訴訟の原告と被告との基本合意（7月）に基づき設置されたハンセン病問題対策協議会で、ハンセン病資料館の予算・施設・人的態勢の充実を確認（12月）。
2002年	国による名誉回復措置の一環としてハンセン病資料館を拡充することを目的に、厚生労働省がハンセン病資料館施設整備等検討懇談会を設置（5月）。
2003年	財団法人藤楓協会解散（3月）、資料館運営委託先が社会福祉法人ふれあい福祉協会に変更（4月）。
	開館10周年（6月）。
2004年	ハンセン病資料館施設整備等検討懇談会が「ハンセン病資料館の拡充にかかる基本計画書」を提出（3月）。
2005年	新館建築・展示リニューアル工事のため一時休館（施工／建築：佐藤工業 展示：丹青社）（9月）。
2006年	新館落成、展示工事開始（10月）。
2007年	展示プラン完成（2月）。
	国立ハンセン病資料館としてリニューアルオープン（3月）。
	厚生労働省がハンセン病資料館等運営企画検討会を設置（11月）。
2008年	「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（通称「ハンセン病問題基本法」、翌年4月施行）の制定によりハンセン病資料館存立の法的根拠が確立（6月）。
2009年	資料館運営委託先が財団法人日本科学技術振興財団に変更（4月）。
2013年	開館20周年（6月）。
2014年	学芸部を新設し、同部に学芸課と社会啓発課を設置（8月）。
2016年	資料館運営委託先が公益財団法人日本財団に変更（4月）。
2018年	学芸部を事業部に、学芸課を事業課に変更し、資料管理課を新設。管理部を新設し、総務課を管理課に変更（4月）。
2020年	資料館運営委託先が公益財団法人笹川保健財団に変更（4月）。

VI これまでの主な事業

1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館（6月）。
1994年	「多磨全生園・神山復生病院 昔むかし写真展」開催（4月～6月）。
	開館1周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」開催（6月）。
	「国吉信遺作展」開催（9月～10月）。
1995年	「菊池恵楓園・琵琶崎待労病院 昔むかし写真展」開催（4月～6月）。
	『ハンセン病資料館』刊行（5月）。
	開館2周年記念フォーラム「ハンセン病の歴史を探る」開催（6月）。
1996年	開館3周年を記念し、「らい予防法廃止について」をテーマに評論を募集（4月）。
	「邑久光明園・大島青松園 昔むかし写真展」開催（5月～6月）。
	開館3周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」開催（6月）。
	「趙昌源絵画展 韓国小鹿島の光と影」開催（10月～11月）。
1997年	「好善社 慰廃園回顧展」開催（3月～4月）。
	「松丘保養園・長島愛生園 昔むかし写真展」開催（5月～6月）。
	講演会「ハンセン病の偏見・差別を越えて」開催（11月）。
1998年	「栗生楽泉園・星塚敬愛園 思い出の写真展」開催（5月～6月）。
	「趙昌源絵画と入園者作品展」開催（9月）。
	開館5周年記念「趙根在（遺作）写真展 ハンセン病の光と影」開催（10月～11月）。
	『高松宮記念ハンセン病資料館 開館5周年のあゆみ』刊行（12月）。
1999年	「写真展・沖縄2園の今昔」開催（5月～6月）。
	開館6周年記念「趙昌源講演会 国立小鹿島病院の思い出と韓国のハンセン病事情」開催（6月）。
	「陶芸展・全生焼 & 写真展・全生園の森展」開催（10月～11月）。
2000年	「芦村カズヨ絵画展」開催（1月）。
	「写真展「駿河療養所」& 写生画「東村山30景展」」開催（2月～3月）。
	「思い出の東北・奄美写真展」開催（5月～6月）。
	開館7周年記念「長島愛生園展」開催（10月～11月）。
2001年	らい予防法廃止5周年記念学習会「『らい予防法』とはなにか？ ―法律と市民社会―」開催（全3回、3月～5月）。
	開館8周年記念講演会、鶴見俊輔「ハンセン病との出逢いから」開催（7月）。
	開館8周年記念「菊池恵楓園展」開催（10月～11月）。
2002年	開館9周年記念映画会「千と千尋の神隠し」開催（7月）。
	開館9周年記念「邑久光明園展」開催（10月～11月）。
2003年	開館10周年記念「松丘保養園展」開催（6月～7月）。
	開館10周年記念事業として、大谷藤郎講演会「近代の論理とハンセン病」と、ひとり芝居「をぐり考」を開催（6月）。
	開館10周年記念「多磨全生園展」開催（10月～12月）。
2004年	『高松宮記念ハンセン病資料館10周年記念誌』刊行（10月）。
2005年	開館12周年記念「各園むかし写真展」開催（6月～8月）。
2007年	常設展示リニューアル（3月）。
	国立ハンセン病資料館再開館式（3月）。

2007年	リニューアルオープン記念「趙昌源絵画展 ー小鹿島の光と影ー」開催（4月～5月）。
	2007年度秋季企画展「こころのつくろい ー隔離の中での創作活動ー」開催（10月～12月）。
	講演・ハーモニカ演奏会、近藤宏一「青い鳥楽団と私」開催（秋季企画展付帯事業、11月）。
2008年	2008年度春季企画展「ハンセン病療養所の現在」開催（4月～6月）。
	連続講演会「療養所の歴史を語る」開催（春季企画展付帯事業、全4回、6月）。
	2008年度秋季企画展「ちぎられた心を抱いて ー隔離の中で生きた子どもたちー」開催（9月～11月）。
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2008』刊行（9月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第1号 平成19（2007）年度』刊行（10月）。
2009年	企画展「北高作陶展 ー仲間に支えられてー」開催（1月～3月）。
	企画展「多磨全生園陶芸室のあゆみ」開催（1月～3月）。
	「隔離の百年」のプレ企画として「公立療養所写真パネル展」開催（4月～6月）。
	2009年度企画展「隔離の百年 ー公立療養所の誕生ー」開催（7月～12月）。
	シンポジウム「隔離の記憶を掘る ー全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」ー」開催（企画展付帯事業、9月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第2号 平成20（2008）年度』刊行（10月）。
2010年	国際ハンセン病政策シンポジウム（第1回）「ハンセン病医療政策と資料保存 ー日本とノルウェーー」開催（金沢大学との共催、1月）。
	企画展「桃生小富士展」（1月～2月）。
	Everly コンサート開催（企画展付帯事業、2月）。
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2009』刊行（3月）。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット1 シンポジウムの記録 隔離の記憶を掘るー全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」ー』刊行（3月）。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号』刊行（3月）。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2 ハンセン病関連法令等資料集』刊行（3月）。
	『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行（3月）。
	2010年度春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」開催（4月～7月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21（2009）年度』刊行（8月）。
2011年	2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く ー写された20世紀前半の療養所」開催（9月～12月）。
	企画展「高山勝介作陶展」開催（2月～3月）。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行（3月）。
	2011年度春季企画展「かすかな光をもとめてー療養所の中の盲人たちー」開催（4月～7月）。
	企画展「いのちの詩 塔和子展」開催（「塔和子の会」との共催、5月～6月）。
	講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	企画展「伊藤秋夫写真展」開催（8月～9月）。
	2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある ー全療協60年のあゆみー」開催（10月～12月）。
2012年	連続講演会「わたしの運動の記憶」開催（秋季企画展付帯事業、全4回、11月～12月）。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行（3月）。
2012年	2012年度春季企画展「青年たちの「社会復帰」 ー1950-1970ー」開催（4月～7月）。

2012年	講演会、中修一「“社会復帰10年” —中修一さん 2回の社会復帰をととして—」開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	特別企画展「北高作陶展」を奈良県天理市で開催（9月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第4号 平成22（2010）年度』刊行（3月）。
	2012年度秋季企画展「癩院記録 —北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所—」開催（10月～12月）。
	講演会、清原工「北條民雄・人と作品」開催（秋季企画展付帯事業、11月）。
2013年	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2012』刊行（1月）。
	『国立ハンセン病資料館ブックレット3 看護の足もと “看護の行為と看護の原理”を問いなおす』刊行（2月）。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第4号』刊行（3月）。
	2013年度春季企画展「一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者 ～中世前期の患者への眼差しと処遇～」開催（5月～8月）。
	講演会、田中密敬「極楽寺境内絵図を紐解く」開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	開館20周年記念展開催（6月～7月）。
	開館20周年記念式典開催（6月）。
	『国立ハンセン病資料館 20周年記念誌』、『資料館だより』復刻版 —20年のあゆみ— 第1号（1993年10月）-第79号（2013年4月1日）』刊行（6月）。
2014年	開館20周年記念講演会、日野原重明「ハンセン病の患者に生涯を捧げた神谷美恵子医師の生き方」開催（6月）。
	講演会、遠山元浩「一遍聖絵の世界」開催（春季企画展付帯事業、7月）。
	2013年度秋季企画展「想いでできた土地 多磨全生園の記憶・くらし・望みをめぐる」開催（10月～12月）。
	多磨全生園現地ガイドツアー開催（秋季企画展付帯事業、全6回、10月～12月）。
	開館20周年記念座談会「資料館の設立、活動、これからへの期待を語る」開催（11月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第6号 平成24（2012）年度』刊行（12月）。
	特別企画展「林志明作品展 —中国ハンセン病回復者の書画活動—」開催（4月～5月）。
	講演会、林志明「私と書画活動」開催（特別企画展付帯事業、4月）。
	2014年度春季企画展「不自由者棟の暮らし —ハンセン病療養所の現在—」開催（4月～7月）。
	講演会、山内和雄「沖縄愛楽園の不自由者棟」開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	東京都公文書館にて、同館との共催企画展「人権の歴史とアーカイブズ —ハンセン病、隔離の歴史を超えて—」開催（10月～12月）。
	2014年度秋季・2015年度春季企画展「この人たちに光を —写真家趙根在が伝えた入所者の姿—」開催（11月～2015年5月）。
2015年	講演会、大竹章「趙根在の写真を語る」開催（秋季・春季企画展付帯事業、11月）。
	『国立ハンセン病資料館年報 第7号 平成25（2013）年度』刊行（3月）。
	絵本『すみれ』（文：北條民雄、絵：山崎克己）刊行（3月）。
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第5号』刊行（3月）。
	「北條民雄生誕100年絵本「すみれ」刊行記念原画展」開催（7月）。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（8月）。
2015年	2015年度秋季企画展「私立ハンセン病療養所 待労院の歩み —創立から閉院までの115年—」開催（10月～12月）。

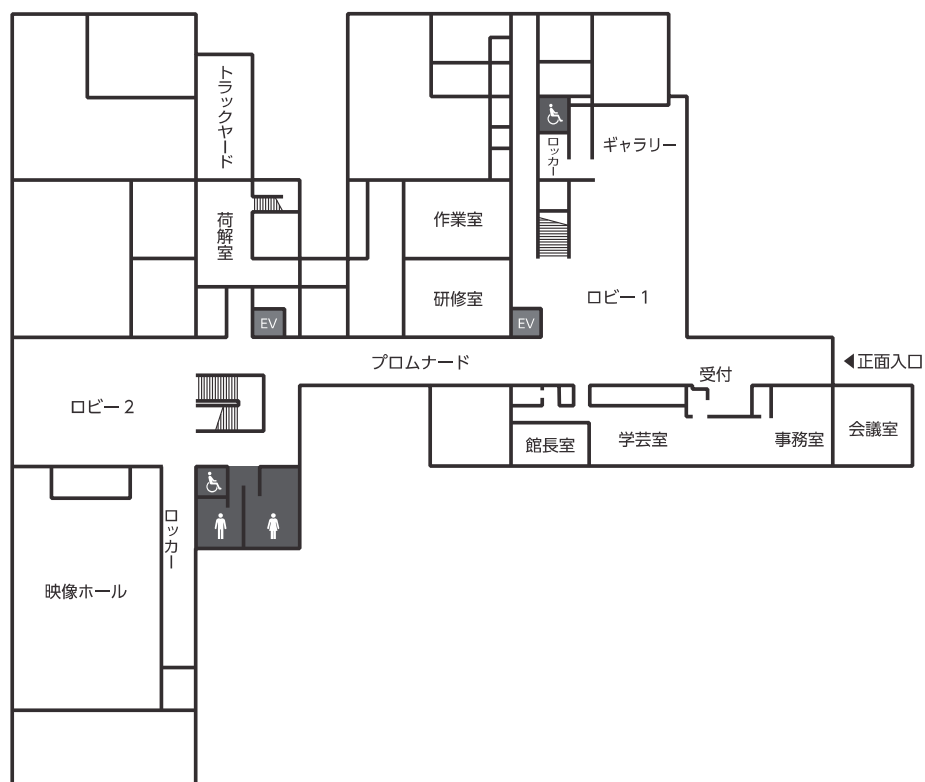
2016年	絵本『かわいいポール』（文：北條民雄、絵：おぼまこと）刊行（3月）。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成26（2014）年度 年報』刊行（3月）。
	2016年度春季企画展「らい予防法」をふりかえる」開催（4月～7月）。
	講演会、長田浩志「全患協と共に歩んだ「らい予防法廃止」への道のり」開催（春季企画展付帯事業、7月）。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（8月）。
	2016年度秋季企画展「生きるための熱 ースポーツにかける入所者たちー」開催（10月～12月）。
	「あなたもゲートボールデビュー」開催（秋季企画展付帯事業、11月）。
	野球談議「嗚呼、新良田教室野球部！！」開催（秋季企画展付帯事業、12月）。
2017年	「多磨全生園内「全生学園跡地」における「堀」の現地見学会」開催（1月）。
	「若松若太夫師匠の説経節の公演」開催（2月）。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成27（2015）年度 年報』刊行（2月）。
	「多磨全生園内「土塁・堀の考古学調査」についての成果報告会」開催（3月）。
	2017年度春季企画展「ハンセン病博物館へようこそ」開催（4月～7月）。
	「「ハンセン病博物館へようこそ」各館活動報告会」開催（春季企画展付帯事業、7月）。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（7月・8月）。
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催（8月）。
	2017年度秋季企画展「隔離のなかの食 ー生きるために 悦びのためにー」開催（9月～12月）。
2018年	講演会「ハンセン病療養所の食の現在 ー国立療養所邑久光明園からー」開催（秋季企画展付帯事業、11月）。
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（11月～3月）。
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成28（2016）年度 年報』刊行（2月）。
	佐川修さんを偲ぶ上映会を開催（4月）。
	佐川修さん追悼展を開催（4月～5月）。
	2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディ ーハンセン病療養所の音楽活動ー」開催（4月～7月）。
	古典・民謡コンサート開催（春季企画展付帯事業、7月）。
	ギャラリートーク開催（春季企画展付帯事業、5月～7月）。
	ギャラリー展「長渡虹邨展」開催（6月～7月）。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（7月）。
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催（7月）。
	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー！記者になってみよう」開催（8月）。
	「プロカメラマンと撮る全生園」開催（9月）。
	映画「あつい壁」上映会開催（11月）。
	ギャラリー展「生誕100年 島比呂志展 ー書くことは生きることー」開催（11月～12月）。
	ギャラリートーク開催（島比呂志展付帯事業、11月）。
	上映会&平沢保治さんトークイベント「親子でハンセン病を学ぼう」開催（11月）。
	2018年度秋季企画イベント「もうひとつの橋 ～邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベント～」開催（11月）。
	講演会「生誕100年 島比呂志の生涯と文学」開催（12月）。
	講演会「ソーシャルワーカーを目指すあなた達に伝えたいこと」開催（12月）。

2018年	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（4月～12月）。
2019年	ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」開催（1月）。
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（2月～12月）。
	ビデオ上映会「ハンセン病資料館開館25周年記念 宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」」（2月～3月）。
	映画「新・あつい壁」上映会開催（3月）。
	上映会&韓国舞踊公演「貴重映像でたどる「アリランの会」の軌跡」開催（3月）。
	2019年度春季企画展「キャンバスに集う ～菊池恵楓園・金陽会絵画展」開催（4月～7月）。
	春季企画展オープニングセレモニー 弦楽四重奏・ヴァイオリンソロ演奏（春季企画展付帯事業、4月）。
	ギャラリートーク開催（春季企画展付帯事業、4月～7月）。
	お絵かきワークショップ「キャンバスにあつまれ！」開催（春季企画展付帯事業、5月）。
	映画「あん」上映会開催（5月）。
	ギャラリー展「太田明写真展」開催（5月～6月）。
	トーク企画「生きるための絵」開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	講演会「金陽会の作家たち、その素顔」と木管三重奏のクラシックコンサート開催（春季企画展付帯事業、6月）。
	講演会「報道マンに訪れた“人間回復” ～ハンセン病回復者との出会いから～」開催（6月）。
	金陽会絵画 館蔵品展開催（春季企画展付帯事業、7月）。
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（7月）。
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催（7月）。
	夏休みスペシャル！子どもむけ展示解説開催（8月）。
	ギャラリー展「追悼 高山勝介作陶展」開催（8月）。
	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー！記者になってみよう」開催（8月）。
	映画「ふたたび」上映会開催（8月）。
	講演会「ハンセン病問題を学び、伝えるということ ～学校現場から～」開催（8月）。
	「第25回 ICOM（国際博物館会議）京都大会2019文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ―」出展（9月）。
	ギャラリー展「第25回 ICOM（国際博物館会議）京都大会2019文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ―」出展報告・展示紹介（9月）。
	2019年度秋季企画展「『望郷の丘』 ―盲人会が遺した多磨全生園の歴史―」開催（9月～12月）。
	ギャラリートーク開催（秋季企画展付帯事業、9月～12月）。
	フィールドワーク「『望郷の丘』に描かれた多磨全生園を巡る」開催（秋季企画展付帯事業、10月～12月）。
	講演会「元職員が語る多磨盲人会 ―吉野志げ子さん・亀井義展さんをお招きして」開催（秋季企画展付帯事業、10月）。
	ミュージアムトーク2019開催（10月～12月）。
	「やってみよう、鈴ボール！盲人会のレクリエーションを体験」開催（秋季企画展付帯事業、11月）。

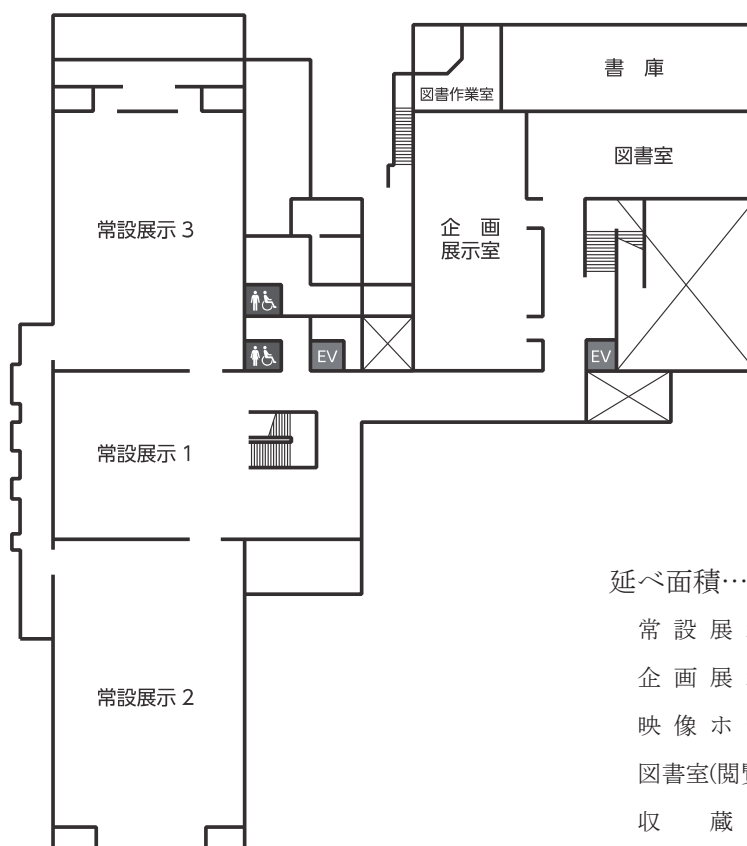
2019年	ドキュメンタリー映画「風の子孫たち」上映会開催（11月）。
	ギャラリー展「没後60年・志樹逸馬展」開催（11月～12月）。
	講演会「志樹逸馬の詩と出会う」開催（ギャラリー展付帯事業、11月、12月）。
	記録映画「見えない壁を越えて」上映会開催（11月）。
	多磨全生園創立110周年記念事業「親子で学ぶ多磨全生園」開催（11月）。
	講演会「家族が語る もうひとつのハンセン病史」開催（12月）。
	クリスマスお絵かきイベント「みんなで描こうクリスマスツリー」開催（12月）。
2020年	正月イベント「やってみよう！ お正月行事」開催（1月）。
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（1月～2月）。
	ミュージアムトーク2020早春開催（1月～2月）。
	職業シリーズ第4弾 講演会「ハンセン病問題と弁護士の使命 ～ハンセン病裁判を闘った弁護士たち～」開催（1月）。
	証言映像上映会開催（2月）。
	オンラインミュージアムトーク開催（7月～2021年3月）。
	企画展「石井正則写真展「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る～」」開催（9月～12月）。
	オンラインギャラリートーク開催（石井正則写真展付帯事業、10月～11月）。
	ライブ配信「職業シリーズ」第5弾 講演会「RADIO ハンセン病問題を伝える ～メディアの責任・ラジオの可能性～」開催（11月）。
2021年	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催（12月）。
	ギャラリー展「コロナ時代 ハンセン病回復者からのメッセージ」開催（1月～2月）。
	オンライン展示解説開催（ギャラリー展「コロナ時代 ハンセン病回復者からのメッセージ」付帯事業、2月）。
	企画展「『青い芽』の版画展-多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景-」開催（3月）。
	オンライン朗読会開催（『青い芽』の版画展付帯事業、3月）。
	オンラインギャラリートーク開催（『青い芽』の版画展付帯事業、3月）。

VII 施設概要

1 階



2 階



延べ面積…4,350.38 m²

常設展示室…878m²

企画展示室…175m²

映像ホール…195m²

図書室(閲覧室)…116m²

収蔵庫…368m²

第2章 2020年度事業

I 教育啓発機能

1. 団体見学対応

従来は、事前予約をして来館する団体来館者に対し、当資料館映像ホールにおけるガイドンス映像の上映等を行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環で、事前予約制・定員制による開館とし（午前の部：10:00-11:30、午後の部：13:30-15:00、どちらも入場定員は10名）団体での来館受付は休止した。

そのため、2020年9月に来館が叶わない団体向けの対応として、常設展示室よりライブ配信ができるようインターネット環境等を整備し、学芸員が展示室を回りながらハンセン病の歴史やハンセン病問題の説明を行うオンライン展示解説を開始した。

【主な利用団体】小学校（9校）、看護学校（5校）、中学校（2校）、高校（2校）、大学（2校）

【利用団体・利用者数】25団体、延べ1,559名

2. 語り部活動・講義

1) 館外講演会への講師派遣

1回目の緊急事態宣言が明け再開した2020年6月23日以降、学校、自治体、教育委員会等からの依頼に応じ、下記の通り、学芸員等を講師としてハンセン病問題の講演を行った。

【講 師】大高俊一郎（当館学芸員、事業部社会啓発課課長）

金 貴粉（当館学芸員）

牛嶋 渉（当館学芸員）

儀同 政一（元当館事業部社会啓発課課長）

【実施団体数】 76件（対面36、オンライン40）

【聴 衆】 9,797人 ※聴衆は概数を含む

2) 体験講話

従来は「体験講話」として月に複数回の頻度で行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環で休止とした。

3. シンポジウム・講演会等の開催

1) オンラインミュージアムトーク2020 第1回「ハンセン病問題と保健婦たち」

保健婦経験者の証言を通して、ハンセン病隔離政策の地方自治体における活動の一端を紹介した。

【開催日】2020年7月25日 Zoom 配信ライブ

【講師】木村哲也（当館学芸員）

【参加者】86名

2) オンラインミュージアムトーク2020 第2回「『青い芽』の中学生たち」

『青い芽』の版画展付帯事業

多磨全生園にあった東村山中学校全生分教室の卒業文集『青い芽』から、在校生たちによる作文や詩を紹介した。

【開催日】2020年8月29日 Zoom 配信ライブ

【講師】西浦直子（当館学芸員）

【参加者】77名

3) オンラインミュージアムトーク2020 第3回「北條民雄を読み直す」

全生病院（現多磨全生園）の入所者で、『いのちの初夜』などの作品で知られる北條民雄（本名・七條晃二）の足跡をたどった。

【開催日】2020年9月19日 Zoom 配信ライブ

【講師】清原工（ライター）

【参加者】69名

4) オンラインミュージアムトーク2020 第4回「山本暁雨の人と書」

16才で全生病院（現多磨全生園）に入所し、歌舞伎、俳句、書と様々な文化活動に取り組んだ山本暁雨（本名・熊一 1899-1973）の人と表現について考察した。

【開催日】2020年10月24日 Zoom 配信ライブ

【講師】金貴粉（当館学芸員）

【参加者】56名

5) オンラインミュージアムトーク2020 第5回「ゲートボール熱中時代」

1980年代から療養所で盛んになったゲートボールの活動について、歴史と意義を考察した。

【開催日】2020年11月21日 Zoom 配信ライブ

【講師】大高俊一郎（当館学芸員）

【参加者】31名

6) オンラインミュージアムトーク2020 第6回「多磨全生園の隠された史跡をたどる」

多磨全生園の史跡や建物について、園内からの二元中継を交えて紹介した。

【開催日】2020年12月19日 Zoom 配信ライブ

【講師】橋本彩香（当館学芸員）

【参加者】67名

7) オンラインミュージアムトーク2021 第1回「不自由者看護切替の運動について」

多磨盲人会の動きを中心に、不自由者看護の職員切替が実現するまでの運動と、大規模闘争と

して全国の入所者によって行われた「六・五闘争」について考察した、ミュージアムトークを開催した。

【開催日】2021年1月16日 Zoom 配信ライブ

【講師】田代学（当館学芸員）

【参加者】50名

8) オンラインミュージアムトーク2021 第2回「家族の語りを聞く—絵本『ツルとタケシ』原画展から」

ハンセン病患者・回復者の家族の語りを聞くことについて、2020年の絵本『ツルとタケシ』原画展をめぐり考察した、ミュージアムトークを開催した。

【開催日】2021年2月20日 Zoom 配信ライブ

【講師】辻央（沖縄愛楽園交流会館学芸員）

【参加者】42名

9) オンラインミュージアムトーク2021 第3回「『青い芽』の版画展 ギャラリートーク」

『青い芽』の版画展付帯事業

2020年8月に実施した「『青い芽』の中学生たち」の続編となる本編では、多磨全生園で中学生時代を送った子どもたちの卒業文集『青い芽』に綴じられていた版画作品を紹介した。

【開催日】2021年3月20日 Zoom 配信ライブ

【講師】西浦直子（当館学芸員）

【参加者】42名

10) 「職業シリーズ」講演会第5弾「ライブ配信 RADIO ハンセン病問題を伝える ～メディアの責任・ラジオの可能性～」

TBS ラジオの記者としてハンセン病問題の取材を続けてきた崎山敏也氏を講師に招き、同氏が取材した音源をはじめとした TBS ラジオが所蔵するハンセン病問題を取り上げた番組の貴重な音源を紹介した。

【開催日】2020年11月28日 YouTube によるライブ配信

【講師】崎山敏也

11) 「ハンセン病と人権」セミナー

今年で6年目を迎える「ハンセン病と人権」セミナーを当館 YouTube チャンネルにて初のオンライン配信形式で、語り部講演と当館学芸員による講演を行った。

【開催日】2020年12月5日 YouTube によるオンライン配信

【講師】山内きみえ（多磨全生園）語り部講演

大高俊一郎（当館学芸員）「日本におけるハンセン病問題の歴史と現在」

12) 朗読会『青い芽』の世界 療養所のなかの卒業文集

『青い芽』の版画展付帯事業

『青い芽』に収録された中学生の作文・詩、入所者である補助教師の随筆などを朗読した。

【開催日】2021年3月14日 YouTube によるライブ配信

【出演】中畠聡（劇団桃唄309）／佐藤達（劇団桃唄309）／山西真帆（劇団桃唄309）

4. 資料の貸出

1) 写真パネルの貸出

ハンセン病問題の啓発に資する展示を自ら企画したいという方々を対象に、写真パネルセットの貸出を行った。「全園写真パネル」（全国の療養所における写真パネル46点のセット）、「多磨全生園写真パネル（戦前編）」（多磨全生園の写真パネル19点とタイトル1点のセット）、「たたかいつづけたから、今があるー全療協60年のあゆみー」（2011年度秋季企画展の展示内容が含まれたパネル一式）の3セットがあり、先方の希望に応じて貸し出した。

【件数】15件

2) 所蔵資料の貸出

当館で所蔵する資料の貸出を希望する団体、個人に対して、資料の貸出を行った。

【件数】1件

3) 啓発用ビデオ、語り部ビデオの貸出

希望する団体に対して当館で作成した下記映像資料（いずれもDVD）の貸出を行った。

【啓発用ビデオ DVD】『ハンセン病を知っていますか？』（一般向け、一般向け英語版）、『未来への虹ーぼくのおじさんはハンセン病ー』（小学生向け）

【語り部ビデオ DVD】『平沢保治さん講演』（小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編、教員編、看護学生編、公務員編）、『佐川修さん講演』（中学生編、一般・医療・看護学生編）

【件数】57件

4) 啓発資料等作成への協力

ハンセン病に関する啓発資料等の作成にあたり、当館所蔵資料の複製・掲載等を希望する個人、団体に対して、撮影・複製許可等の協力を行った。

【件数】44件

5. 学校教育との連携

1) 教材ビデオの配布

小学校を中心とした教育機関におけるハンセン病問題の普及啓発は本年度も継続して行った。

教材ビデオ『平沢保治さん講演 小学生中学年編』、『平沢保治さん講演 小学生高学年編』、『平沢保治さん講演 中学生編』、『平沢保治さん講演 教員編』（いずれもDVD）について、希望する学校・教育関係機関に配布した。

【件数】24件 【配布本数】53本

2) その他学習支援

従来はハンセン病問題啓発ビデオ、語り部講演ビデオやパネル等の貸し出し、語り部講演ビデオの配布、授業の一環としてハンセン病資料館を来館する小中学校を対象とした送迎バスの配車、来館予定の小中学校の教員向けの事前説明、来館の小中学校で希望がある場合には、見学前ガイダンス説明や質問の受付、見学後の振り返り等を行っていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う限定開館が続いたため、教育機関の来館が叶わなかったことから、従来の活動を実施することは困難であった。

しかしながら、再開館後の2020年6月中旬以降はオンラインと対面による出張講座を再開し、2020年9月以降はオンラインによる展示説明を新たに開始した。小学校を中心とした教育機関におけるハンセン病問題の普及啓発は本年度も継続して行った。

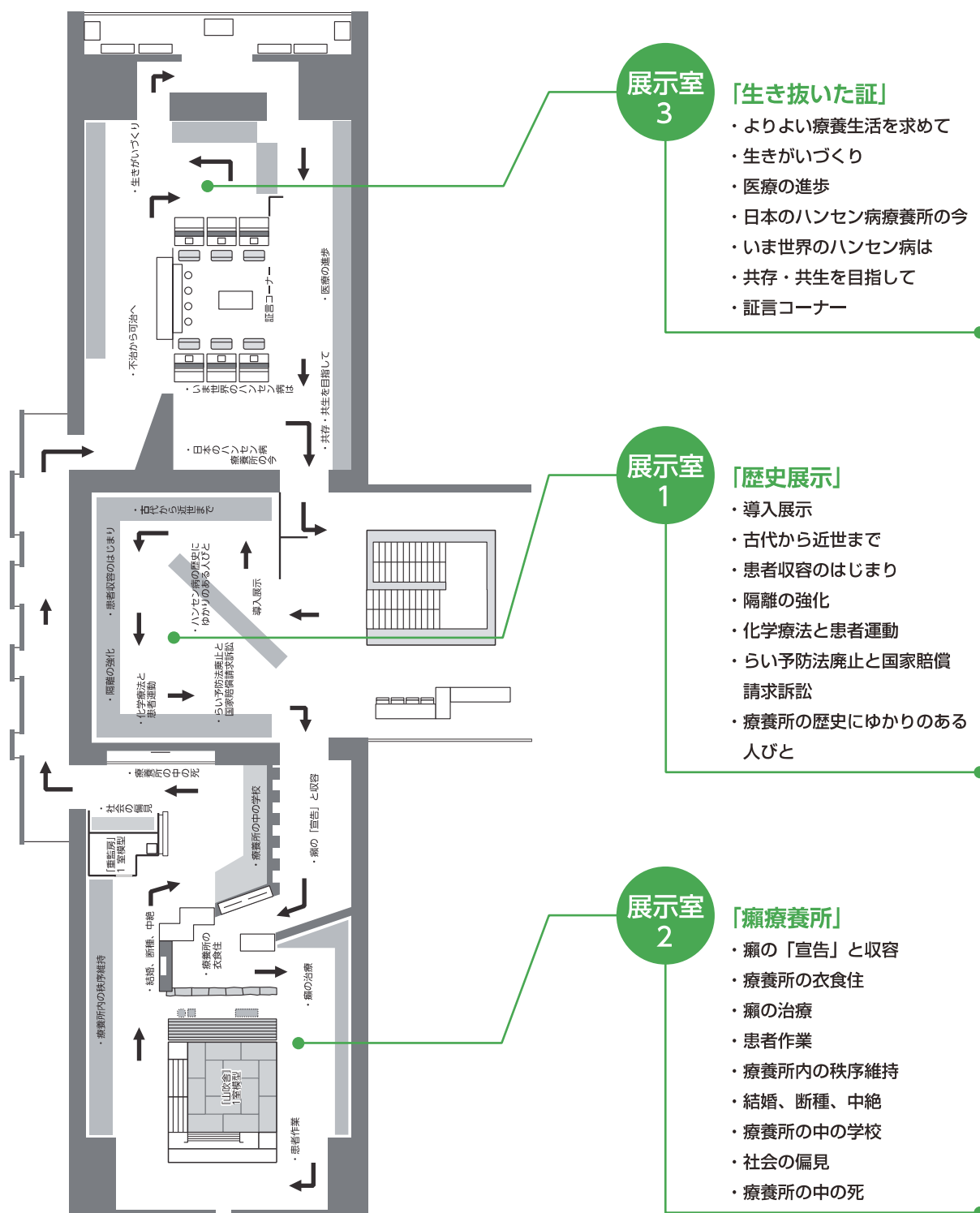
2020年度は教育機関側においてもコロナ禍におけるオンライン対応の開始期にあたり、双方とも試行錯誤の中での取り組みとなったが、今後は円滑な対応が見込まれる。加えて学習指導案の収集を行い、当資料館ホームページ上に、ハンセン病問題授業実践アーカイブを公開した。指導案は今後も収集を継続する計画である。

Ⅱ 展示機能

1. 常設展示

1) 常設展示

プロムナード展示・導入展示、展示室1「歴史展示」、展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」、4つのエリアで構成し、約950点の資料を展示している。



■展示室1「歴史展示」

【趣旨・内容】日本における古代から現代までのハンセン病の歴史を、近代以降の隔離政策を中心に概観する。常設展示の中心である展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」を見るための前提として、歴史的経緯の把握を目的とした展示と位置づけている。

【主 な 資 料】文書、写真、地図、実物資料、模型、解説映像（小学生向け解説シートは撤去し受付で配布）

■展示室2「癩療養所」

【趣旨・内容】化学療法開発以前の時代を中心に、療養所における苦難に満ちた生活、隔離政策のもとでの人権侵害、偏見・差別の実例を示す。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋と「重監房」の1室原寸大模型も展示している。

【主 な 資 料】生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の1室（模型）、「重監房」の1室（模型）、写真、解説映像

■展示室3「生き抜いた証」

【趣旨・内容】苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿と、ハンセン病をとりまく諸状況を示す。具体的には、患者運動、創作活動、共に生きる手がかりとなる知識などを展示している。また、国内42人、海外22人の回復者・関係者の証言映像を視聴できるビデオブース（証言コーナー）を設けている。なお展示室2から展示室3に至る回廊には絵画作品を、展示室3の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

【主 な 資 料】写真、文書、文学作品、絵画、陶芸、書、手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類、解説映像、証言映像

■プロムナード展示・導入展示

設立準備（1990年）から開館20周年（2013年）までの当館の足跡、館の目的・理念・機能、基本情報（面積、運営費等）を展示している。

2）常設展示の更新

- ・展示室1 152点、展示室2 29点、展示室3 14点について、グラフィックパネルの修正を行った。また次年度の更新、修正にむけて、本年度は準備を進めた。
- ・プロムナード 「ハンセン病資料館の基本情報」の更新を行った。
- ・展示室2 照明をLED スポットライトに変更した
- ・展示室3 「日本のハンセン病療養所の今」コーナーの「療養所所在地と入所者数」のパネルについて各園入所者数を更新した。
- ・常設展示見直し検討会が発足し、これまでに検討会構成員による現展示についての意見を伺ったと同時に、今後の進め方についての協議が開始した。

3) 展示解説の実施

- ・2018年5月より、個人来館者向けのサービスの一環として学芸員による常設展示の解説を開始し、2019年度には夏休みに子ども向け展示解説を開始したが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、展示解説は休止した。
- ・展示の理解を深めるため、展示室1の解説シートを改訂し、さらに展示室2・3の解説シートを新たに作成した。解説シートは、日・英の2ヵ国語を作成したことで、国内外の見学者への展示概要の説明が可能となった。さらに、展示室2・3については、解説シートに基づいた解説ビデオを、日・英の2ヵ国語（字幕付き）で新たに制作した。

2. 企画展示・特別展示

1) ハンセン病資料館の自主企画による企画展示

■企画展 石井正則写真展「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る～」

国立ハンセン病療養所13園をすべてまわり、8×10という大判カメラで療養所の「現在」を撮影してこられた石井正則氏。今回、ご自身で手焼きしたモノクロ写真27点を展示した。

【会 期】2020年9月19日～2020年12月6日

【会 場】企画展示室

【付帯事業】

- ・オンラインギャラリートーク

【開催日】2020年10月11日・2020年11月3日 Zoom ライブ配信

【会 場】企画展示室

【講 師】石井正則

木村哲也（当館学芸員）

■ギャラリー展 コロナ時代 ハンセン病回復者からのメッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大により、新型コロナウイルス感染者やその家族、医療従事者等に対して、偏見や差別などが表面化したことを受けて、ハンセン病回復者やその家族が発したメッセージを展示した。

【会 期】2021年1月22日～2月23日

【会 場】ギャラリー

【付帯事業】

- ・オンラインギャラリートーク（ゲスト・岩川 洋一郎氏）

【開催日】2021年2月6日 YouTube ライブ配信

【会 場】ギャラリー

■企画展 『青い芽』の版画展 ―多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景―

多磨全生園内に設置されていた東村山中学校全生分教室の卒業文集『青い芽』より、生徒による木版画107点を展示した。

【会 期】2021年3月2日～6月10日

【会 場】ギャラリー

【付帯事業】

- ・朗読会『青い芽』の世界 療養所のなかの卒業文集

【開催日】2021年3月14日 YouTube によるライブ配信

【出演者】中嶋聡（劇団桃唄309）／佐藤達（劇団桃唄309）／山西真帆（劇団桃唄309）

- ・オンラインギャラリートーク『青い芽』の版画展 一多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景―

【開催日】2021年3月20日 Zoom ライブ配信

【会 場】企画展示室

2) 関連機関等への施設貸出（展示）

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

Ⅲ 収集・保存機能

1. 資料の収集

ハンセン病治療薬 2 点、ハンセン病関連書籍153点、ハンセン病関連文書資料 4 点、園内通用券 2 点を受贈した。

2. 収蔵資料の保存・管理

1) 分類・整理

収蔵資料については、実物資料（約5,500点）、文書（約6,700点）、作品（約4,200点）、写真（約100,000点）に大別し、資料整理を進めた。

【実物資料】収蔵庫内約5,500点のうち3,650点のデータベース登録を行い、同時に収蔵庫内の資料の整理を行った。

【文 書】約6,700点のうち約4,000件のデータベース登録を行った。準備が整ったものからデジタル化を開始した。

【作 品】収蔵庫内約4,200点のうち、約590点のデータベース登録を行った。同時にデジタル化、資料写真撮影を行った。

【写 真】約100,000点のうち、45,425点のデータベース登録を行った。同時に、デジタル化も順次行った。

2) 保存・管理

- ・保存環境の把握と改善のために、館内各所の定期点検・清掃・温湿度計測等を含む維持管理、虫菌害の発生の確認と対応を行った。
- ・資料の燻蒸、雨水桝等の清掃などを行った。

3) 館内環境の保全

- ・収蔵エリア（特別収蔵庫、収蔵庫 1・2、前室、一時保管庫）、常設展示室、企画展示室、図書室、書庫の資料保全にかかる環境調査、定期点検、クリーニング、温湿度管理等を行った。
- ・館内の資料保存環境維持のため、カビの除去や虫の侵入路の閉鎖など、問題発生時の対応を行った。
- ・館内において虫害防除のため、紫外線補虫器や隙間テープの設置、点検、情報整理および記録、薬剤散布を行った。

4) その他

- ・収蔵庫増築に関する諸機関との調整を行った。

IV 調査研究機能

1. 収蔵資料に関する調査

収蔵資料についてハンセン病回復者、関係者からのヒアリングを行うなど、資料情報の詳細な把握に努め、常設展示・企画展示や資料カードの作成等に反映した。

2. 企画展・催事開催のための調査研究

- ・2020年度企画展石井正則写真展「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る～」に関する調査研究を行った。
- ・2020年度ギャラリー展「コロナ時代 ハンセン病回復者からのメッセージ」に関する調査研究を行った。
- ・2020年度版画展『青い芽』の版画展 一多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景—に関する調査研究を行った。

3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究

1) 中・長期にわたる継続的資料調査・研究活動

- ・語り部機能継承に関する勉強会は、沖縄戦語り部ボランティアから、非当事者としての語り部活動について聞き取りを行う計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、休止した。2015年から2018年にかけて行った各ハンセン病療養所入所者等の聞き取り調査延べ179本について、文字起こしがされていなかった37本の文字起こしを行った。加えて、2017年に開始したハンセン病回復者による体験講話のうち、文字起こしがされていなかった23本の文字起こしを行った。
- ・第8号国立ハンセン病資料館研究紀要の発行に向けて、各学芸員が必要な調査研究を行った。
- ・「書評 松岡弘之著『ハンセン病療養所と自治の歴史』」に関する調査研究を行った。
- ・ミュージアムトークに向けた調査研究を行った。

2) 学会、シンポジウム、講演会等への参加

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

3) 博物館活動全般に関連する調査研究

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

4) 調査研究の公開

- ・ガイドブック「想いでできた土地 ハンセン病療養所 多磨全生園の記憶・くらし・望みをめぐる」を発行した（2021年3月31日）。
- ・第8号国立ハンセン病資料館研究紀要を発行した（2021年3月31日）。
- ・学芸員の調査研究の成果を発信する場として、「ミュージアムトーク」を開催した。

日 程	タ イ ト ル	報 告 者
2020年 7 月25日	ハンセン病問題と保健婦たち	木村 哲也
2020年 8 月29日	『青い芽』の中学生たち	西浦 直子
2020年 9 月19日	北条民雄を読み直す	清原 工
2020年10月24日	山本暁雨の人と書	金 貴粉
2020年11月21日	ゲートボール熱中時代	大高俊一郎
2020年12月19日	多磨全生園の隠された史跡をたどる	橋本 彩香
2021年 1 月16日	不自由者看護切替の運動について	田代 学
2021年 2 月20日	家族の語りを聞く一絵本『ツルとタケシ』原画展から	辻 央
2021年 3 月20日	『青い芽』の版画展 ギャラリートーク	西浦 直子

V 情報センター機能

1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用

当資料館公式ホームページの運用について、本年度も引き続き定期的に保守点検・データ更新を行った。また、企画展、ギャラリー展、講演等各種イベントの開催案内ならびに開催報告の掲載を行った。

また、企画展・ギャラリー展のオンライン展示解説、オンラインミュージアムトーク、講演イベント等の開催動画を当資料館公式 You Tube に公開するなど、広報活動を積極的に実施した。加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環で、事前予約制ならびに定員制にて開館している状況に対応するため、一般来場者の来館予約システムと、団体向けオンライン展示解説予約システムを新たに構築した。さらに、常設展示室にお客様向け Wi-Fi アクセスポイントを設置しハード面の充実を図った。

その他、データ管理の保全を目的とした遠隔地バックアップ業務、ホームページの改善を目指すべく視聴者調査を昨年度より引き続き実施し、情報発信力強化に向けて取り組みを行った。

当資料館ホームページ <http://www.hansen-dis.jp/>

2. 情報提供・検索システム関連業務

- ・写真資料データベースを新たに構築した。
- ・実物資料データベースにおいては、改良を図った。
- ・ハンセン病問題授業実践（指導案）アーカイブに関するデータの追加を行った。

3. 図書室の管理・運営

- ・郵送による貸出業務を2020年10月22日より開始した。
- ・毎月納品の新聞雑誌記事データを新聞雑誌記事検索システム上にて更新した。
- ・『キリスト新聞』2001年～2016年分のハンセン病関連記事の納品データを新聞雑誌記事検索システムに追加・更新した。
- ・『中外日報』1970年～1987年分のハンセン病関連記事を納品データを新聞雑誌記事検索システムに追加した。
- ・長島愛生園から借用した資料『芽生』『萬寿果』『あけぼの』『療養のしるべ』のデータ化・コピー製本を行った。
- ・各ハンセン病療養所機関誌のデータ化ならびに原本の合冊製本・コピー製本を行った。
- ・図書管理システム「FACIL」のデータを新インターフェイスに移行、及びプログラムカスタマイズを行った。
- ・収蔵庫及び書庫の未整理資料の内容と所蔵の有無を確認し、リストを作成した。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する差別偏見に関する情報を収集した。
- ・各ハンセン病療養所発行の年報のデジタル化及び公開に向けて、各ハンセン病療養所と調整、交渉を行った。

- ・ハンセン病関連資料を54点新規購入した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、閲覧室の椅子を一時的に撤去し、長期滞在とならぬよう、資料閲覧を停止した。また図書カウンターにアクリル板を設置し、加えて密になることを避けるためレファレンス業務は休止し、同時に貸出し・返却のみを原則として開室した。

■ 2020年度月別図書室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開 室 日 数	0	0	7	27	26	26	27
レファレンス件数	0	0	1	0	0	0	0
利 用 者 数	0	0	9	58	52	69	69
資 料 出 納 数	0	0	0	0	0	0	0
資 料 複 写 件 数	0	0	0	0	0	0	0
新 規 登 録 者 数	0	0	1	9	4	12	9
通 常 貸 出 冊 数	0	0	12	50	26	60	67
リモート外部貸出冊数	0	0	0	0	0	0	10

	11月	12月	1月	2月	3月	計
開 室 日 数	24	24	24	22	26	233
レファレンス件数	0	0	0	0	0	1
利 用 者 数	59	55	46	36	55	508
資 料 出 納 数	0	0	0	0	0	0
資 料 複 写 件 数	0	0	0	0	0	0
新 規 登 録 者 数	5	3	6	1	0	50
外 部 貸 出 冊 数	60	40	40	44	60	459
リモート外部貸出冊数	5	19	20	27	7	88

※新型コロナウイルス感染防止のため、2020年2月29日～同年6月22日まで臨時休室

4. 印刷物の発行・配布

下記の印刷物を発行し、来館者および関係機関等に配布した。

1) 『資料館だより』（季刊）

- ・資料館だより第107号（A4タテ、4ページ、両面カラー、23,000部、2020年4月1日発行）
- ・資料館だより第108号（A4タテ、2ページ、両面カラー、23,000部、2020年7月1日発行）
- ・資料館だより第109号（A4タテ、4ページ、両面カラー、160,000部、2020年10月1日発行）
- ・資料館だより第110号（A4タテ、4ページ、両面カラー、160,000部、2021年1月1日発行）

2) 来館者用配布資料等

- ・資料館日本語版リーフレットの改定・増刷
（A3変形、両面カラー、観音折り、25,000部、2020年9月発行）

3) 展示図録

- ・2013年秋季企画展「想いでできた土地」図録 多磨全生園ガイドブック『想いでできた土地』を改訂・増刷した。（A5タテ、82ページ、フルカラー、2,000部、2021年3月31日発行）

4) 研究紀要

- ・『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第8号』を発行した。
(A4 タテ、本文150ページ、表紙2色・本文1色、800部、2021年3月31日発行)

5) 年報

- ・『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2019年度 年報』を発行した。
(A4 タテ、72ページ、当館ホームページにて公開、2020年10月1日発行)

VI 管理・サービス機能

1. 施設管理・運営

1) 施設整備

資料館施設等の機能と環境を良好に維持しサービス提供が常に円滑に行われるよう施設等の日常点検ならびに保守および法定点検、環境測定等の保守管理業務を行った。

また、館内の日常清掃、窓ガラス清掃・床ワックス等特別清掃の他、害虫防除業務、屋上防水工事等を実施し適切に施設管理を行った。

2) 設備更新

設備の経年劣化に対処するため適宜更新作業を実施した。2020年度は来館者へのサービス向上を目指し企画展示室ならびに事務室環境の充実を図るため事務室フロアージュタンの交換を行った。

また新型コロナウイルス感染禍、館内空気環境対策として全熱交換器交換工事を実施した他、老朽化による作動不良が発生した2階プロムナード廊下電動ロールスクリーンの交換工事、省エネルギー対策の一環として館内照明器具のLED化を進めた。

3) 情報機器定期保守

システム関係機器に関しては、保守点検を定期的の実施し円滑な運用を図った。また、経年劣化、保守期間終了等更新が必要な機器類については適宜リプレイスを実施した。

また新規採用学芸員に対しパソコン等の機器の手配を行った他、来館者へのサービス提供の一環としてお客様向けWi-Fi機器の設置を行った。

4) 事業費管理

国立ハンセン病資料館の事業費管理を行った。2020年度運営費は 483,982,987円。

2. アンケートの実施

来館者の意見を収集し今後の活動に資するため、企画展、ミュージアムトーク、ハンセン病と人権セミナーなどでアンケートを実施した。

3. 施設貸出

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

4. その他

本年度は、新型コロナウイルス感染防止のため4月1日から6月22日まで臨時休館とした。6月23日

からの開館にあたっては、開館マニュアルを作成し感染予防症対策に万全を期し事前完全予約制とし、午前・午後の時間制限（午前10:00～11:30、午後13:30～15:00）ならびに入場制限（午前、午後それぞれ10人）を行い、クラスターの発生を避けるため細心の注意を払って運営を行った。こうした状況下、資料館の円滑な運営を図るとともに利用者の満足度が高められるよう来館者の側に立ったサービスを心がけ適切に施設運営を行った。

VII 企画調整機能

1. 広報活動

1) 資料館だよりの発行

「V 情報センター機能 4. 印刷物の発行・配布」を参照。

2) ホームページの管理・運営

「V 情報センター機能 1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用」を参照。

3) その他の広報

事業の紹介、各種イベントの案内等周知を図るため印刷物の発行および各種報道機関へのプレスリリースの配信な広報依頼ならびに近隣交通機関とその一部駅舎にへの看板の設置を行い、さらに Facebook、Twitter、YouTube 等 SNS を積極的に活用し、利用者への周知を図った。

■報道

テレビ 5 件、ラジオ 9 件、新聞・雑誌等 102 件において当資料館ならびにイベント等の紹介に関する報道がなされた。

■広報（広告、その他）

- ・西武線所沢駅、久米川駅、清瀬駅、高田馬場駅に額面看板を掲出した。（継続）
- ・JR 武蔵野線新秋津駅に額面看板を掲出した。（継続）
- ・西武バス清瀬駅の時刻表部分に当資料館広報用看板を掲出した。（継続）
- ・企画展、ギャラリー展等イベントの開催案内周知を目的にプレスリリースを添付しマスコミ関係者にメール一斉送信を行った。
- ・オンライン企画（ミュージアムトーク、講演会等）の動画を資料館公式 YouTube に掲載した。
- ・お知らせメールの配信を継続して行った。
- ・資料館公式 Twitter において、「ミニ百科」と題し、資料館にある収蔵品の紹介を、シリーズで発信を行った。

2. 博物館施設、関係諸機関との連携

他の博物館施設や専門図書館との交流促進のため、以下の組織に加盟している。

- ・日本博物館協会
- ・東京都博物館協議会
- ・三多摩公立博物館協議会
- ・医学図書館協会
- ・日本患者図書館協会

VIII 2020年度利用状況

1) 開館日数

2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の開館日数は、233日であった。

2) 入館者数

2020年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数（人）	開館日（日）	1日平均（人）
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	63	7	9.00
7月	257	27	9.52
8月	418	26	16.08
9月	349	26	13.42
10月	503	27	18.63
11月	462	24	19.25
12月	400	24	16.67
1月	205	24	8.54
2月	250	22	11.36
3月	369	26	14.19
合 計	3,276	233	14.06

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

※入館者数 3,276名はすべて個人

※2020年4月1日～6月22日までは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため臨時休館。以降の開館についても、入場者数に定員を設け（午前10名、午後10名）、滞在時間に制限をかけた限定開館であった（午前10:00～11:30、午後13:30～15:00）。

第2部 重監房資料館

第1章 重監房資料館の概要

I 目的・理念・機能

【目的】

特別病室(重監房)の収監に関しては、その運用や手続きなど未だに不明な点が多くある。重監房資料館は、こうした特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する資料の収集・保存と調査・研究の成果を発表することにより、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促すことで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

【理念】

重監房資料館は、特別病室(重監房)を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育む。

【求められる資料館像】

- ①特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに情報や知識を普及啓発する拠点施設。
- ②特別病室(重監房)での過酷な歴史や悲惨な出来事を、想像力をはたらかせながら体感することができ、その苛酷さ・悲惨さが伝わる施設。
- ③年間を通じて開館し、将来にわたって活動を継続できる施設。
- ④特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する資料を収集・展示・保存できる施設。
- ⑤誰もが見学できる施設。
- ⑥地域の方々がかわり、世代を超えて支えられる施設。

【機能】

■歴史継承機能

資料の散逸を防ぎ、歴史とともに後世に伝えるため、特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに、資料を収集・保存する。

■普及啓発機能

調査研究の成果を一般に提供し、人権学習の支援を行う。

■再現・展示機能

〔重監房原寸部分再現〕

原寸部分再現により、特別病室(重監房)の過酷さや悲惨さを感じられるようにする。

〔展示〕

特別病室(重監房)の全体像を示す縮小模型や証言映像、調査研究の成果などを公開する。

■情報発信機能

特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する情報の受発信と集積を行い、特別病室(重監房)や重監房資料館について広く知らせる。

■管理機能

円滑な施設運営を行うとともに、来館者の利便を図る。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

重監房資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために協議を行う。委員の委嘱は、資料館長が行う。事務局は、資料館総務が担当する。

2) 2020年度委員会について

2020年度運営委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況により開催の見込みが立たず、委嘱手続き及び委員会の開催ができなかった。

Ⅲ 重監房資料館管理運営規程

(目的)

第1条 この規程は、重監房資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

(事業)

第2条 資料館は、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律（平成20年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、特別病室(重監房)を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育むため、次に掲げる事業を行う。

(1) 歴史継承事業

特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する資料の収集・保存や調査研究活動を通じて貴重な資料の散逸を防止することで後世に伝承すべき歴史資産を適切に管理するとともに、知見の蓄積に基づく研究成果を発表することで資料館の存在意義を広く認知させる活動を行う。

(2) 普及啓発事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果を、普及・啓発を通じて一般に示し、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

(3) 再現・展示事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果のうち公開可能な物を展示することにより、特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する理解促進とハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

(4) 情報発信事業

資料館の事業を広く一般に周知するとともに、活動内容を公開することでハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

(5) 管理機能事業

資料館を円滑に運営し、利用者の利便性に配慮した活動を実施する。

(年間事業計画)

第3条 重監房資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

(2) 開館時間

フルオープン期間（4/26～11/14）：午前9時30分から午後4時まで（入館は午後3時30分まで）
冬期予約期間（11/15～4/25）：午前10時00分から午後3時30分まで（入館は午後3時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

（入館料）

第5条 資料館の入館料は無料とする。

（入館の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれのある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

（入館者への指導）

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

（損害賠償）

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損、汚損又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

（資料等の亡失・損傷）

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の損害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策を指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規程は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規程は、施設の利用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要な事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

第16条 この規程の定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

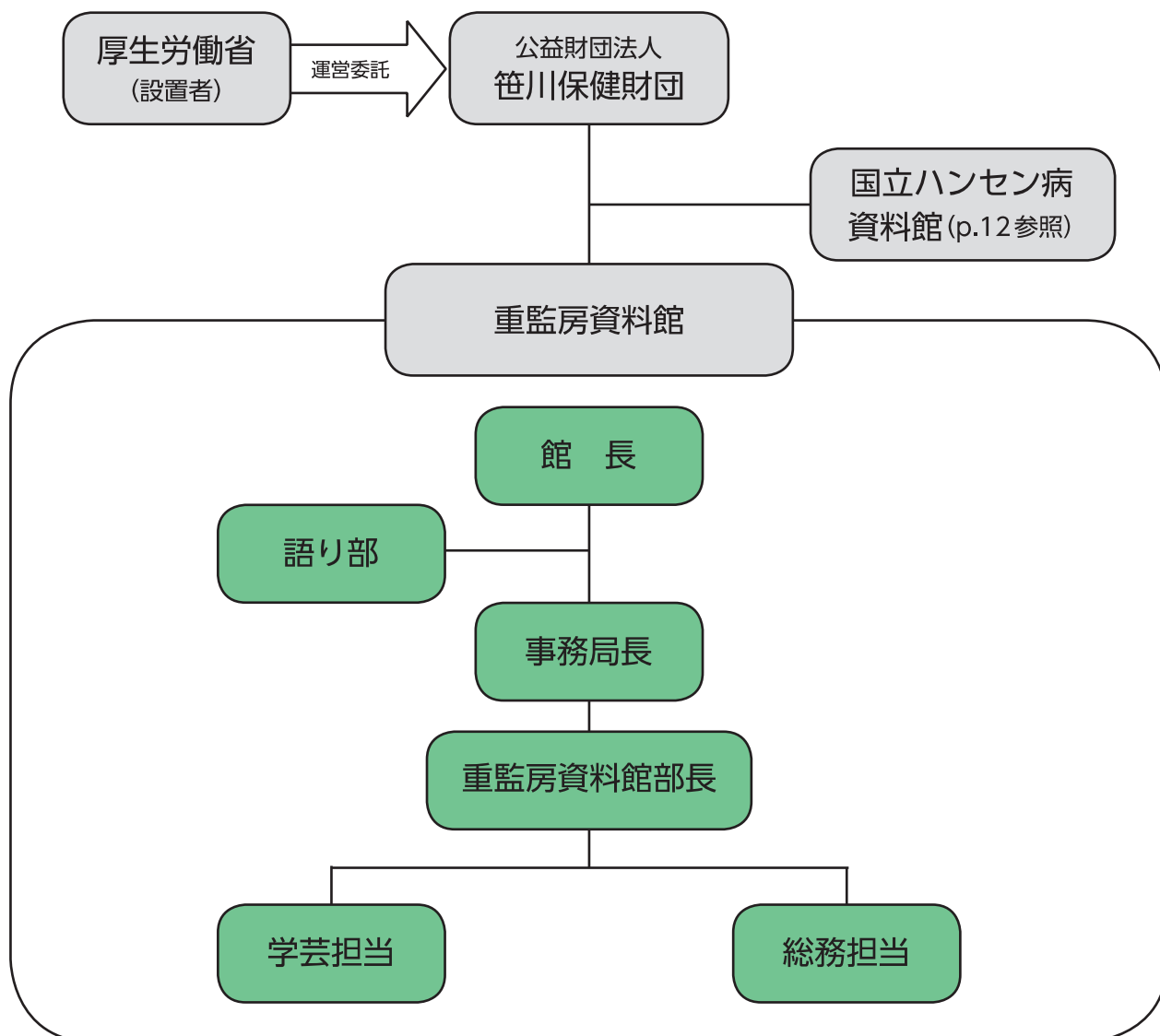
この規程は、2014年4月30日から施行する。

この規程は、2016年7月1日から施行する。

この規程は、2019年12月13日から施行する。

IV 組織

■ 組織図



- ・学芸担当は、歴史継承機能業務、普及啓発機能業務の一部、再現・展示機能業務、情報発信機能業務の一部を担当。
- ・総務担当は、普及啓発機能業務の一部、情報発信機能業務の一部、管理機能業務を担当。

■ 職員名簿 2021年3月31日現在

- ・館長 成田 稔 (国立ハンセン病資料館長兼務)
- ・事務局長 飯塚 賢治 (国立ハンセン病資料館事務局長兼務)
- ・重監房資料館部長 黒尾 和久 (学芸員)
- ・学芸担当 学芸員 鎌田 麻希
- 学芸員補 松浦 志保
- ・総務担当 主任 香川 進司
- 庶務 黒岩 富美子

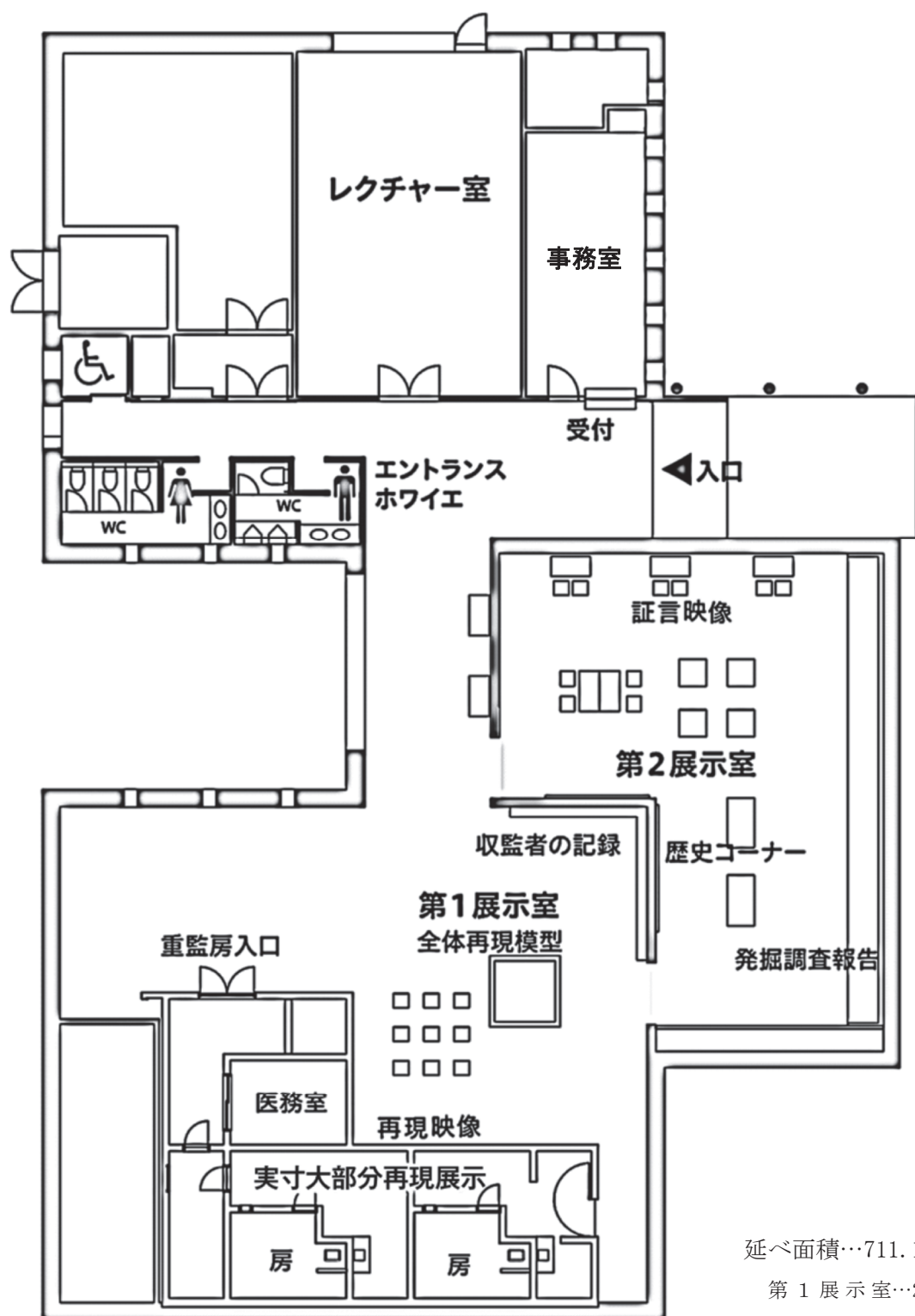
V 沿革：これまでの主な事業

2004年	栗生楽泉園・重監房の復元を求める会が、特別病室（通称重監房、以下「重監房」と表記）跡地の保存と復元を求める107,101人分の署名を国（厚生労働省）に提出（6月）。
2008年	2007年度ハンセン病問題対策協議会において、歴史的建物・資料の保存・復元等については、重監房を優先課題として取り上げることになる（3月）。
	第169回通常国会において「ハンセン病問題の解決に関する法律」が可決・成立、公布される。この法律によって国立のハンセン病資料館の設置や歴史的建造物の保存に法的根拠が与えられた（6月18日公布、翌年4月1日施行）。
2008年	2008年度ハンセン病問題対策協議会において重監房復元、重監房跡地の保存については、国の責任で行うことになる（12月）。
	2010年度ハンセン病問題対策協議会において国（厚生労働省）は重監房再現・展示施設の建築に必要な予算獲得に努めることになる（3月）。
2011年	重監房再現・展示施設の実施設設計経費を盛り込んだ政府の2012年度予算が成立（4月）。
2012年	ハンセン病資料館等運営企画検討会・歴史的建造物等保存作業部会の重監房再現ワーキンググループが、「重監房再現に関する基本計画書」をとりまとめる（5月）。
2013年	重監房資料館の施設整備費及び展示制作費を盛り込んだ、政府の2013年度予算が成立（4月）。
	厚生労働省が「重監房資料館整備工事」の入札公告を公表（5月）。神宮工業が落札。
	「重監房資料館整備工事」着工（6月）。
	厚生労働省が「重監房資料館展示制作」の入札公告を公示（7月）。丹青社が落札。
	国立ハンセン病資料館の協力のもと、厚生労働省が重監房跡地の発掘調査を実施（8月～9月）。出土遺物は、東京都埋蔵文化財センターに保存処理を依頼。
	2013年度ハンセン病問題対策協議会において重監房資料館と跡地の維持・管理、人的体制の整備は国の責任で行うことを確認（10月）。
	国立ハンセン病資料館内に重監房資料館開設準備室を設置。学芸員と事務員各1名が配置される（12月）。
	展示、ホームページ、パンフレット、チラシ等の企画・作成を行う（12月～翌年4月）。
2014年	厚生労働省が重監房資料館の管理運営を盛り込んだ「ハンセン病対策事業（資料館運営等委託分）」の企画競争を公表（1月28日公示）。
	厚生労働省の主催により、前橋市の群馬県民会館でシンポジウム「重監房とは何だったのかハンセン病隔離政策の“負の遺産”を考える」を開催（3月）。
	公益財団法人日本科学技術振興財団が重監房資料館の管理運営事業受託者となる。開設準備室を草津町の建設地内仮事務所に移動。学芸員及び事務員が草津に着任（4月）。
	「重監房資料館整備工事」竣工（4月）。
	厚生労働省から管理運営事業受託者に重監房資料館の建物が貸与され、展示資料の搬入を行う（4月）。
	重監房資料館開館記念式典を挙行。グランドオープン。ホームページを公開（4月）。
	重監房跡地に見学者用の手すりとウッドデッキを整備する工事を行う（10月～翌年3月）。
2015年	厚生労働省により、重監房の遺構基礎構造の調査が行われる（11月～翌年3月）。
	東京で開催された「グローバル・アピール2015」を記念したイベント、「現在・過去・未来…当事者の想い」（パネルディスカッション、子どもたちの空手演武、コンサート）を開催（1月）。
	重監房跡地の見学デッキの一般公開を開始（4月）。
	来館者1万人達成セレモニー開催（6月）。

2015年	重監房跡地の展望台の一般公開を開始（7月）。
	「語り部の日」実施（7月～11月）。
	企画展「沢田五郎特別展」開催（10月～11月）。
2016年	重監房資料館の管理運営事業受託者が公益財団法人日本財団に変更となる（4月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	第89回日本ハンセン病総会・学術大会（草津）開催事務局として支援（6月）。
	休館日を週2日から、週1日に変更（7月）。
	戦後米軍の撮影した空中写真中に重監房を発見（7月）。
	「語り部の日」実施（7月～11月）。
	企画展「人間笹雄二」開催（10月～11月）。
2017年	ドキュメンタリー映像「熊笹の尾根の生涯 ー人間笹雄二・ハンセン病とともに生きるー」制作（10月～11月）。
	重監房新画像発見（5月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	栗生楽泉園監禁室鍵発見（7月）。
	企画展「それは百年前に始まった」開催（7月～8月）。
	門衛跡地発掘調査（10月～11月）。
	門衛跡地発掘調査、報道関係者内覧会（11月）。
2018年	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」（重監房を含む）大型写真パネルの制作、関係者内覧会（2月）。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」（重監房を含む）展示公開（4月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	企画展「隔離のなかの隔離 ーハンセン病療養所監禁室の内部ー」開催（7月～8月）。
	門衛柱屋外展示除幕式開催（7月）。
	来館者3万人達成セレモニー開催（7月）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（8月）。
	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（8月）。
2019年	調査報告書「門衛所跡の発掘調査」発行（3月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	企画展「旧日本統治下海外ハンセン病療養所監禁室展」開催（7月～8月）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～8月）。
	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（7月～8月）。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり ーハンセン病差別と向き合うー」制作（9月）。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり ーハンセン病差別と向き合うー」上映会開催（1月～2月）。
2020年	企画展「重監房跡を掘る☆撮る～黒崎彰写真展～」開催（7月～12月。2021年1月～3月開催延長）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～8月）。

2020年	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（7月～8月）。
	全館燻蒸を実施（9月）。
	レクチャー室に「研文庫」設置（2021年3月）。

VI 施設概要



延べ面積…711.15㎡

第1展示室…240㎡

第2展示室…139.5㎡

レクチャー室…71.4㎡

収蔵庫…50.32㎡

第2章 2020年度事業

I 歴史継承機能

新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、外出、出張等の外部での活動は可能な限り回避するようにしたため、各種調査・研究活動は極力自粛したが、本年度は特に資料の保管関係において、新たな活動を行うことができた。

1. 資料の収集・保存

1) 書籍・古典籍等

なし

2) ハンセン病政策及びハンセン病療養所に関する遺物等

- ・国立療養所栗生楽泉園入所者等から寄贈された資料を収集・保存した。
- ・全国のハンセン病関連施設等で得られた資料を収集・保存した。

3) その他

- ・収蔵庫の棚、テンバコ、中性紙封筒等の備品、消耗品を活用した整理、配置換えを行った。(通年)
- ・収蔵庫内の資料整理用棚設置、収蔵庫内の学芸用 PC 設置、大型プリンター設置、ネットワーク環境追加工事、各種作業用具類検討など、学芸作業環境の大幅な改善を行った。(2020年4月～7月)
- ・第2展示室ウォールケース内の調湿剤の交換を行った。(32個)(2021年1月14日)
- ・冨雄二氏(元ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長、元栗生楽泉園入所者自治会副会長)の寄贈資料の整理、リスト化、データ化作業を行った。
- ・収蔵庫及び展示室において、温湿度の計測を行い、記録や分析を行った。(通年)
- ・旧湯之沢部落周辺地域に関する調査、記録の収集を行った。
- ・試掘調査やサンプル採取によって得られた資料を収集・保存した。

2. 屋外展示(跡地)環境の保全

1) 跡地見学環境整備

- ・雑草の駆除を実施した。
- ・枯葉の除去を実施した。

2) 跡地見学者用デッキ及び見学スペース一般公開

- ・一般公開を継続した。(2020年6月23日～11月14日)

3) 展望台一般公開

- ・一般公開を継続した。(2020年6月23日～11月14日)

3. 調査・研究

1) 特別病室(重監房)に関する調査・研究

- ・前年度に引き続き、特別病室（重監房）遺構基礎構造調査および収監者に関するライフヒストリー調査を行った。

2) ハンセン病政策・ハンセン病療養所史

- ・長島愛生園において、ハンセン病療養所内の監禁室に関わる資料調査を行った。(2021年3月11日～12日)

3) 患者及び回復者（入所者・退所者）等の生活

なし

4) 歴史的建造物・史跡・記念物の保存対策

なし

4. その他

- ・草津周辺におけるハンセン病関連の施設、古地図等の資料調査を行った。(2016年より継続実施中)

Ⅱ 普及啓発機能

「Ⅰ 歴史継承機能」同様、新型コロナウイルス感染防止対策の実施により、外部での普及・啓発活動は可能な限り回避し、また、各機関側の訪問受付、会合開催自粛により、学校・教育委員会、観光施設、観光輸送機関に対する訪問、発表、講演は自粛したが、可能な範囲で講演活動や、後述する「Ⅲ 再現・展示機能」における新たな規模、形、設備の企画展示開催に総力を挙げるなど、今までとは異なる形の取組みに着手することができた。

1. 調査・研究成果の発表

1) 学会発表等

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、各機関の総会、集会等の開催は自粛され、参加及び発表はできなかった。

(日本考古学協会第86回総会中止、第93回日本ハンセン病学会総会・学術集會中止)

2. 語り部活動

語り部活動が栗生楽泉園社会交流会館へ移管されたこと及び語り部の健康上の理由から、「語り部の日」の実施は見送られた。

3. 人権学習の支援

1) 行政機関等に対する協力

- ・「令和2年度藤岡市人権啓発指導者養成講座」において、黒尾和久部長が「どんな人も人は人～人権感覚を磨くということ～ ハンセン病問題、新型コロナウイルス感染症から考える」と題した講演を行った。(主催：藤岡市教育委員会生涯学習課、於：藤岡市教育委員会教育庁舎、2020年10月15日)
- ・「令和2年度草津町人権教育指導者養成講座」において、黒尾和久部長が「どんな人も人は人～人権感覚を磨くとは～」と題した講演を行った。(主催：草津町教育委員会、於：草津町役場、2020年11月6日)
- ・「令和2年度人権啓発研修会」において、黒尾和久部長が「過ちは繰り返しません～感染者への差別・偏見を許さない～」と題した講演を行った。(主催：岡山県県民生活部人権施策推進課、於：ピュアリティまきび、2020年11月13日)
- ・「倉吉市人権教育研究会・ピースクロスとっとり合同研修会」において、黒尾和久部長がトークセッション「ハンセン病映像資料上映と『遺族』に学ぶ」の講師、パネラーを担当した。(主催：倉吉市人権教育研究会・ピースクロスとっとり2020、於：倉吉未来中心、2020年11月14日)
- ・「さいたま市鹿室南集会所人権教育講演会」において、黒尾和久部長が「ハンセン病問題とは何か～現状と課題～」と題した講演を行った。(主催：さいたま市教育委員会生涯学習部人権教育推進室、於：鹿室南集会所、2020年11月28日)

- ・「あいぼーと徳島 ハンセン病フォーラム」において、黒尾和久部長がシンポジウムのパネラーを担当した。（主催：徳島県立人権啓発推進センター、於：徳島県立中央テクノスクールろうきんホール、2021年2月5日）

4. 普及啓発のための映像制作活動

- ・遺族証言映像 続「遺族ふたりー仙太郎大叔父編ー」（仮称）制作準備を開始した（ロケハン・シナリオハンティング）。

2021年度中の完成を目指した証言映像制作のため、その皮切りとして、現地にてロケーションハンティングを兼ねたシナリオハンティングを行った。

重監房資料館の開館5周年（2019年4月30日）を記念して、ハンセン病元患者の2人の縁者の協力を元に、当館が制作したドキュメンタリー映像「遺族ふたり」（2019年10月14日公開）は好評を得、ハンセン病問題の理解を広め、普及啓発の充実につなげるという、当初の目的を果たすことができた。（「2020年第94回キネマ旬報ベスト・テン」において、「知られてはならない秘密～患者の子と呼ばれて～」：17位、「仙太郎おじさん！ 貴方は確かにそこにいた～展示資料に親族をみつけて～」：20位に、それぞれランクイン）また、ハンセン病家族訴訟の熊本地裁判決の確定をうけて、厚生労働省難病対策課が示した国立のハンセン病資料館における普及啓発の取組方針にも示されたように、名誉回復の対象が元患者・回復者のみならず、その家族・遺族に広がったことに対しても時宜を得た取り組みにもなった。重監房資料館では、「遺族ふたり」の制作経験を整理して、さらに「続編」の制作を企画し、「無癩県運動」について焦点化を意識する。

本年度は、前調査・制作準備として、ロケハン、シナリオハンティングを行った。

撮影・調査場所：2021年3月8日～15日 長島愛生園、愛媛県北宇和郡鬼北町、南予地方、西土佐地域他

制作委託：岩波映像株式会社

制作予定：2020年度中 前調査、ロケハン、シナリオハンティング

2021年度 制作内容決定 → 映像作成、完成。

2021年度末～2022年度 映像公開（上映会あるいはDVD作成等）

5. 執筆活動

1) 雑誌・書籍等

- ・『歴史地理教育5月号（No909）』（一般社団法人歴史教育者協議会発行）において、「ハンセン病回復者の家族・遺族の人生被害をめぐってー熊本地裁判決を受けて考えるー」と題して、黒尾和久部長が執筆した。

2) 論文・報告書

なし

6. イベントの開催

- ・ハンセン病者の歴史と密接な関わりを持つ草津町内に点在するハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティアガイドの案内で徒歩で巡るウォーキング・ツアーを開催した。

実施日：2020年8月1日、8月8日、8月15日（※7月25日：雨天中止）

コース：草津温泉バスターミナル→光泉寺→湯畑→旧湯之澤区（大滝の湯、中和工場）→頌徳公園→リーかあさま記念館→八十八ヵ所→湯之澤共同墓地及びリー女史墓所→保育所跡→門衛及び重監房跡→栗生楽泉園社会交流会館→重監房資料館→解散
（所要時間 約6時間）

参加者数：12名 ボランティアガイド：2名

- ・不便な位置にある重監房資料館への来館の促進と、夏休み期間の親子の来館増加を目的に、無料のシャトルタクシー(ジャンボタクシー：9人乗り)を配備し草津温泉バスターミナル駅と重監房資料館間の往復を送迎運行した。

実施日：2020年7月18日～8月23日の金・土・日・祝日の19日間

コース：草津温泉バスターミナル～栗生楽泉園社会交流会館～重監房資料館（最大約10往復/日）

利用者数：68名（延べ）

7. 学校教育支援活動

1) 学校教育への支援

- ・獨協医科大学1学年リベラル・スタディ「ハンセン病とヒバクシャ、そして新型コロナウイルスーらい予防法廃止までー」において、黒尾和久部長が「日本におけるハンセン病問題の歴史」と題した講演を行った。（於：獨協医科大学、2020年9月9日）
- ・獨協医科大学1学年リベラル・スタディ「ハンセン病とヒバクシャ、そして新型コロナウイルスーハンセン病患者とその家族の人権回復への道ー」において、黒尾和久部長が「第4回：ハンセン病療養所にある納骨堂について考える：名前を取り戻す名誉回復について」と題した講義を行った。（於：獨協医科大学、2020年9月16日）
- ・栃木県立宇都宮商業高等学校「人権教育講演会」において、黒尾和久部長が「人を優しく見るにはーハンセン病問題から考えるー」と題した講演を行った。（於：宇都宮商業高校第一体育館、2020年9月23日）
- ・獨協医科大学1学年リベラル・スタディ「ハンセン病とヒバクシャ、そして新型コロナウイルスー総合討論ー」において、黒尾和久部長が「第8回：授業のまとめ：医師としてどう生きるか」と題した討論会を行った。（於：獨協医科大学、2020年10月21日）

2) 学校・教育委員会への広報活動

新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、群馬県内外の市町村等の外部への訪問は自粛した。

3) 学校団体来館

新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、館内見学者数9人とし、展示解説は休止した

が、小学校、中学校、専門学校、大学計8団体、50人が来館した（昨年度比の2割）。

8. 広報活動

1) レンタルDVDの貸出

- ・当館PR・DVD「重監房資料館への道」、ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」の随時貸出を行った。

2) 観光施設、観光輸送機関に対する広報活動

新型コロナウイルス感染防止対策により、群馬県内外観光関係施設等の外部への訪問活動は自粛した。

9. 栗生楽泉園との連携

1) 栗生楽泉園・重監房資料館双方を見学する来館者への対応

- ・栗生楽泉園と重監房資料館の両方を見学する来館者対応について、栗生楽泉園福祉課の見学担当者との連絡を励行した。

2) 栗生楽泉園新採用者オリエンテーションへの協力

- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況により、毎年行われていた4月1日付採用職員に対する研修講演等は中止となった。

3) その他

なし

Ⅲ 再現・展示機能

1. レクチャー室

1) ガイダンス映像の上映

- ・一般向けガイダンス映像「重監房の記憶」の上映を行った。(約25分)
- ・小・中学生向けガイダンス映像「楽泉園の子供たち」の上映を行った。(約18分)

2) その他の利用

各種研修・学習会等に利用した。(年4回)

3) その他

- ・「研文庫」の新設

レクチャー室に研雄二氏の寄贈図書による図書コーナー「研文庫」を新設し、図書整理を行った。

2. エントランス・ホワイエ

1) ハンセン病に関する展示

ハンセン病について解説したパネルと治療薬の展示及び「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)の掲出のほか、常設展示(「ハンセン病について」、治療薬サンプル)、企画展示(黒崎彰写真展序章部)を行った。

2) 普及啓発コーナー

新聞や雑誌の関連記事とともに、関係啓発施設や近隣災害情報、厚生労働省の公報等、必要なお知らせについて掲示した。

3. 常設展示

1) 第1展示室

■特別病室(重監房)のジオラマ

縮尺20分の1の再現模型を展示し、特別病室(重監房)の全体像や立地の俯瞰的学習を可能にした。

■収監者のパネル

93人の収監者のプロフィールをパネル化し、時系列に沿って展示することで、収監実態が分かるよう工夫した。

■再現映像の上映

現存する資料や入所者の証言に基づき、収監者の特別病室(重監房)内での様子を再現した映像を上映した。(約8分)

■実寸大で部分再現された「特別病室（重監房）」の内部

医務室や独房につながる通路、夏と冬のふたつの独房を実寸大で忠実に再現した。また、学芸員が同行する館内ガイドツアーでは、見学者は実際に再現された独房の内部に入り、扉の閉鎖や施錠された時の絶望感を体感できるようにした。加えて、立地条件をリアルに体験できるように、昼間と夕暮れの日差しの雰囲気照明機器を自動的に調整し、臨場感を演出した。

（新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、館内ガイドツアー、独房内部への立ち入りの見学は中止した。）

2) 第2展示室

■ハンセン病問題の年表

我が国におけるハンセン病問題にまつわる主な出来事を、明治時代以降を年表にして時系列に掲示した。また、日本ニュース社が昭和22年に撮影した実際の特別病室（重監房）の映像視聴をできるようにした。

■出土遺物発掘報告コーナー

遺物を通して特別病室（重監房）の過酷さを伝えることを目的に、特別病室（重監房）跡地の発掘調査によって出土した遺物と解説パネルの展示を行った。南京錠の実物大写真、独房内の便槽写真、建材である木片、弁当箱、差し入れ品などを展示した。

■証言映像コーナー

複数の元患者の証言映像の視聴をできるようにした。

3) 常設展示の更新

■エントランス・ホワイエ

- ・展示資料の保全ならびに、新型コロナウイルス感染防止を目的に、資料周辺に接近・接触回避のための結界や案内表示を設置した。
- ・楽泉園年報（昭和13年度、昭和17年度）の照明付展示ケースを移設した。

■第1展示室

- ・特別病室（重監房）の立地環境が樹林に囲まれていたことを示す動物標本の一部を、所有者に返却した。

■第2展示室

- ・展示可動壁の活用と大型モニターを使った動画エリアの設置などによる展示点数の増加と展示レイアウトの変化を試みた。

4. 企画展示

- ・企画展「重監房跡を掘る☆撮る～黒崎彰写真展～」開催。

会 期：2020年7月22日～2021年3月31日

来館者数：1,453人

作 品 数：36点 特別病室（重監房）跡発掘記録動画常時上映

写真家・黒崎彰氏が撮りためてきた特別病室（重監房）跡地の写真、そして開館準備のために黒崎氏に撮影していただいた発掘風景の写真・発掘遺物の写真、そして特別病室

（重監房）跡地の保存に尽力したゆかりの人々（筈雄二氏・鈴木幸治氏・藤田三四郎氏など）の写真等から精選して、重監房資料館のエントランス及び常設展示室において、写真展を行った。

黒崎氏のレンズを通して切り取られた特別病室（重監房）の世界を提供し、その写真の力を借りて、併行する常設展示の説明を、より説得力のあるものとするという狙いを持たせた。

5. その他

- ・市販玩具ブロックを利用、製作した児童向け監禁室模型を展示した。

IV 情報発信機能

1. ホームページ

- ・新着情報の追加掲載、外部へのリンク追加等を行った。
- ・その他、各ページのメンテナンスを行った。

重監房資料館 ホームページ <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

2. 広報資料の作成・発行

- ・資料館だより『くりう』No.16を発行した。(2020年5月16日 10,000部)
各ハンセン病療養所、関係者、関係機関、関係団体に合計約6,500部を配布した。

3. マスコミ対応

- ・マスコミ各社からの取材対応を行った。
テレビ 1社
新聞社 7社
その他 2団体等

4. その他

- ・来館希望者や旅行会社等に対し、リーフレット、チラシ等を送付した。
※広報活動については、「Ⅱ 普及啓発機能」参照。

V 管理機能

1. 新型コロナウイルス感染防止対策

新型コロナウイルス感染防止のため、主に以下の対応を行った。

- ・開館時間の縮小（フルオープン期9:00～16:00、冬期予約期間10:00～15:30 → 一律10:00～15:30に変更）
- ・館内見学者常時9人以下への制限
- ・来館者への検温実施、マスク着用の要請
- ・消毒用アルコールの設置
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・団体解説の休止
- ・展示資料接近、接触回避のための各種案内表示の設置
- ・館内消毒の励行

2. 施設運用のための必要機能の整備

1) 施設整備・更新

資料館の施設の機能、サービスの提供が良好に行われるよう、設備等の点検、保守、修理交換作業、報告、訓練等を行った。

- ・ホワイエに、ピクチャーレールを増設、ダウンライト照明を傾斜型照明に変更工事施工（2020年7月）
- ・事務室、収蔵庫棚等の地震対策施工（2020年7月）
- ・進入路補修工事（2020年8月）
- ・ホワイエのサッシに紫外線カットフィルム施工（2020年9月）
- ・全館燻蒸（2020年9月）
- ・展示室内照明レール増設（2021年3月）
- ・収蔵庫強制除加湿器の設置（2021年3月）
- ・植栽定期メンテナンス（2020年8月）
- ・法定設備点検の実施（2020年10月）
- ・消防用設備機器点検（2020年11月）、ならびに消防訓練、消防用設備総合点検（2021年3月）の実施
- ・館内空調定期点検、館内環境測定の実施（2020年11月）
- ・水道管水質問題調査、対処（2021年1月より継続中）
- ・夏季における除草、植栽等環境整備
- ・冬季における除雪、防風雪対策、屋根上降雪前点検・簡易清掃
- ・保全実態調査票、保全台帳の厚生労働省への提出
- ・水道管関係各種機器故障交換対処
- ・映像機器故障対応

2) 博物館施設、関係機関との連携活動

- ・2021年度企画展に向け、中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」と協議を行った。(2021年1月27日)
- ・オンライン学芸員会議に参加した。(2020年10月8日)
- ・オンライン学芸員勉強会に参加した。(2020年12月24日)
- ・学芸員連絡協議会 Web 会議に参加した。(2021年2月16日)
- ・インターネットミュージアムメンテナンス、日本博物館協会関係各種事務手続き等を行った。

VI 2020年度利用状況

1) 開館日数

2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）の開館日数は、230日であった。

2) 入館者数

2020年度の各月入館者数、及び各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

※ 2020年4月1日～6月22日 新型コロナウイルス感染防止対策のため、休館。

※ 2020年9月4日～9月6日、9月8日 全館燻蒸作業のため、臨時休館。

	入館者数（人）	開館日（日）	1日平均（人）※	備考
4月	0	0	0	フルオープン期間 (4月26日～11月14日)
5月	0	0	0	
6月	74	7	10.57	
7月	365	27	13.52	
8月	380	27	14.07	
9月	232	22	10.55	
10月	294	27	10.89	冬期予約期間 (11月15日～4月25日)
11月	220	24	9.17	
12月	44	24	1.83	
1月	14	24	0.58	
2月	29	22	1.32	
3月	104	26	4.00	
合 計	1,756	230	7.63	

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

【入館者数平均】7.63人/日

【団体利用状況】86団体286人（学校団体：8団体50人）

利用案内

国立ハンセン病資料館

【交通アクセス】

- ・西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅北口行きバスで約10分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・西武新宿線久米川駅北口から、清瀬駅南口行きバスで約20分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・JR武蔵野線新秋津駅から、久米川駅北口行きバスで約10分(「全生園前」下車、徒歩約10分)、または徒歩約20分
- ・西武池袋線秋津駅より徒歩約20分
- ・関越自動車道所沢インターチェンジから車で約30分

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

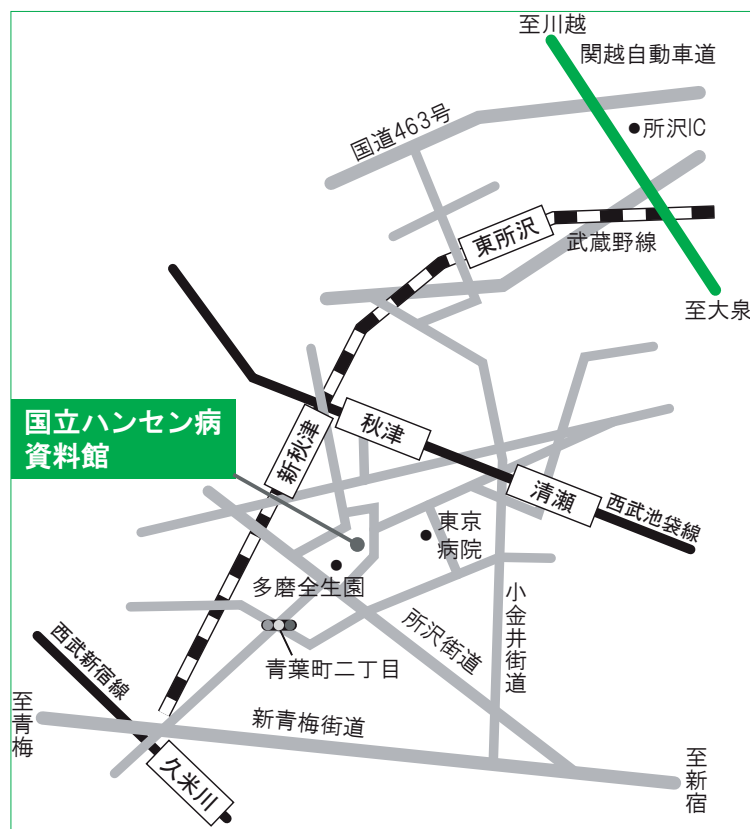
【休館日】

毎週月曜日(祝日の場合は開館)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日

【入館料】

無料

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13



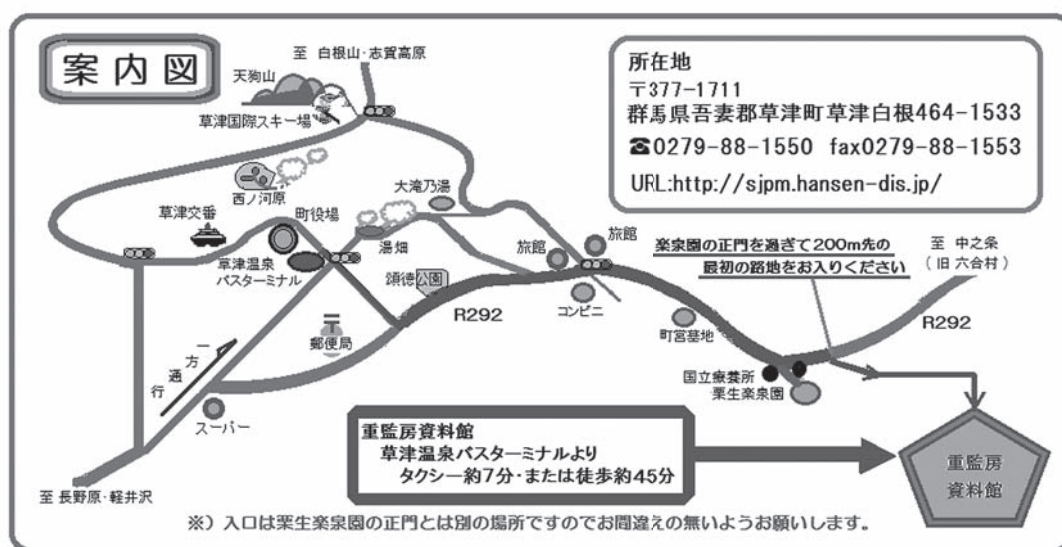
電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL: <https://www.nhdm.jp/>

重監房資料館

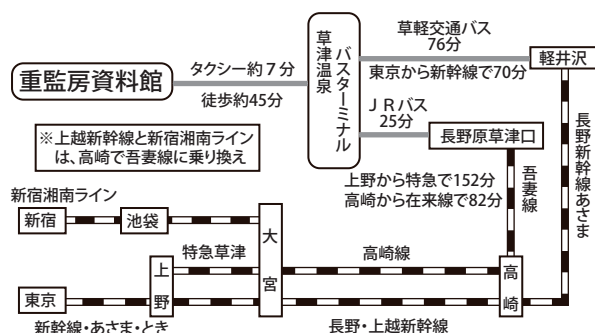
区分	フルオープン期間 (4/26～11/14)	冬期予約期間 (11/15～4/25)
受付対象	個人及び団体・学校	個人も事前予約制
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館3時00分)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日	

入館料：無料

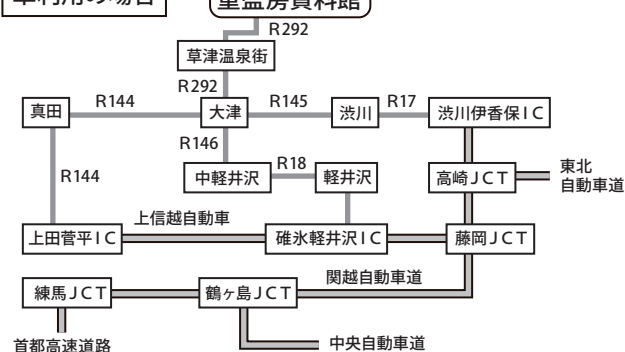


交通アクセス

鉄道・バス利用の場合



車利用の場合



〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533

電話 0279-88-1550 FAX 0279-88-1553

URL : <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2020 年度 年報

2021 年 12 月 1 日 発行

編集・発行 国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13

電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL: <https://www.nhdm.jp/>
